

高知市 中心市街地活性化 基本計画

暮らす・働く・訪れ遊ぶ

魅力共創のおまちへ

令和5年4月

（ 令和5年3月17日認定
令和7年3月5日変更
令和8年8月21日変更 ）

高知県高知市



目 次

○基本計画の名称 -----	1
○作成主体 -----	1
○計画期間 -----	1
1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針	
[1] 高知市の概況 -----	1
[2] 中心市街地の現状分析 -----	5
[3] 地域住民のニーズ等の把握・分析 -----	30
[4] 前計画の実施状況と取組の評価 -----	38
[5] 中心市街地活性化の課題 -----	49
[6] 中心市街地活性化の基本的な方針 -----	50
2. 中心市街地の位置及び区域	
[1] 中心市街地の位置 -----	51
[2] 区域 -----	52
[3] 中心市街地の要件に適合していることの説明 -----	54
3. 中心市街地の活性化の目標	
[1] 中心市街地の活性化の目標 -----	60
[2] 計画期間 -----	60
[3] 目標指標の設定 -----	61
[4] 数値目標の設定 -----	63
4. 土地区画整理事業、市街地再開発事業、道路、公園、駐車場等の公共の用に供する 施設の整備その他の市街地の整備改善のための事業に関する事項	
[1] 市街地の整備改善の必要性 -----	78
[2] 具体的事業の内容 -----	79
5. 都市福利施設を整備する事業に関する事項	
[1] 都市福利施設の整備の必要性 -----	85
[2] 具体的事業の内容 -----	86

6. 公営住宅等を整備する事業、中心市街地共同住宅供給事業その他住宅の供給のための事業及び当該事業と一体として行う居住環境の向上のための事業等に関する事項	
〔1〕 街なか居住の推進の必要性 -----	88
〔2〕 具体的事業の内容 -----	89
7. 中小小売商業高度化事業、特定商業施設等整備事業、民間中心市街地商業活性化事業、中心市街地特例通訳案内士育成等事業その他の経済活力の向上のための事業及び措置に関する事項	
〔1〕 経済活力の向上の必要性 -----	92
〔2〕 具体的事業の内容 -----	93
8. 4 から 7 までに掲げる事業及び措置と一体的に推進する公共交通の利便の増進を図るための事業及び特定事業に関する事項	
〔1〕 公共交通機関の利便性の増進及び特定事業の推進の必要性 -----	110
〔2〕 具体的事業の内容 -----	111
◇ 4 から 8 までに掲げる事業及び措置の実施箇所 -----	113
9. 4 から 8 までに掲げる事業及び措置の総合的かつ一体的推進に関する事項	
〔1〕 市町村の推進体制の整備等 -----	114
〔2〕 中心市街地活性化協議会に関する事項 -----	116
〔3〕 基本計画に基づく事業及び措置の一体的推進 -----	123
10. 中心市街地における都市機能の集積の促進を図るための措置に関する事項	
〔1〕 都市機能の集積の促進の考え方 -----	125
〔2〕 都市計画手法の活用 -----	126
〔3〕 都市機能の適正立地、既存ストックの有効活用等 -----	127
〔4〕 都市機能の集積のための事業等 -----	130
11. その他中心市街地の活性化のために必要な事項	
〔1〕 基本計画に掲げる事業等の推進上の留意事項 -----	131
〔2〕 都市計画との調和等 -----	133
12. 認定基準に適合していることの説明 -----	136

- 基本計画の名称：高知市中心市街地活性化基本計画
- 作成主体：高知県高知市
- 計画期間：令和5年4月～令和10年3月(5年)

1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

[1] 高知市の概況

(1) 地勢、気候

高知市は、四国南部のほぼ中央に位置している。市域面積は309.00㎢であり、市内には、東経133度33分33秒、北緯33度33分33秒と3が並ぶ「地球33番地」がある。

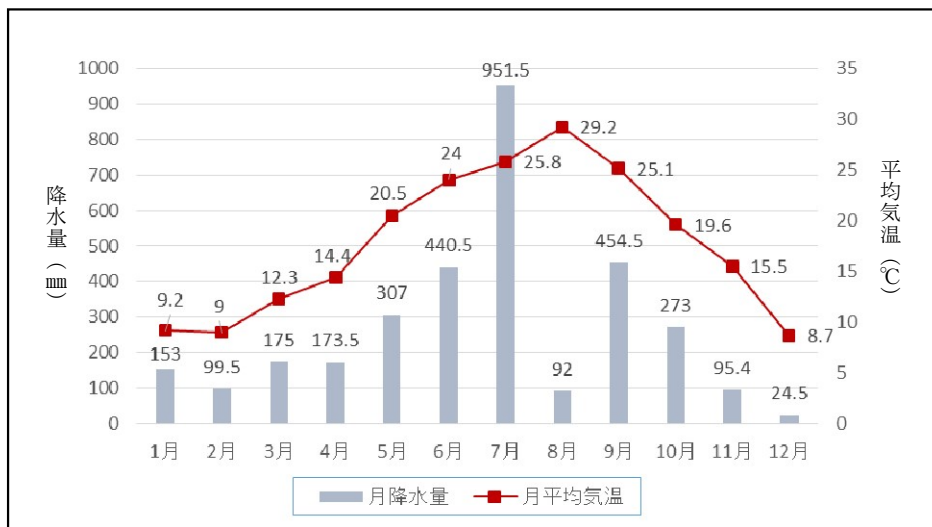
市の北方には急峻な四国山地があり、その支峰である市域北部の北山に源を発する鏡川の下流域を中心に都市が形成されている。南は浦戸湾を経て土佐湾に面し、東西に広がる海岸線から黒潮が流れる雄大な太平洋を一望できる地理的条件にある。

気候は、年間を通じて降水量が多く、特に夏から秋にかけては台風の進路に当たることから、年によっては3,000mmを超す世界的にも有数の降水量がある。また、年間2,000時間を超える日照時間は、都道府県庁所在都市で上位に位置している。

年平均気温については、都道府県庁所在都市の平均値と比較して1～2度ほど高く、総じて温暖で、降水量、日照及び気温に恵まれており、農作物などの生産に有利な気候条件にある。

■高知市の位置





■高知市の月平均気温と月降水量（令和2年）

※資料：高知市統計書

（２）歴史

○都市のなりたち

高知市は、浦戸湾沿岸に広がる平野を活用して新田や市街地を拡大してきた。高知市が位置する地域は、中世から戦国期にかけて当時の土佐国の中心地としての位置付けがなされるようになり、長宗我部元親が岡豊から大高坂山を経て浦戸に移り、その拠点として城を築いた。

その後、関ヶ原の戦いで敗れた長宗我部氏は改易となり、土佐に入国した山内一豊が慶長年間に大高坂山に城を築き、歴代の藩主が城下町を形成して以来、土佐の政治、経済、文化の中心地として発展してきた。

○明治維新・自由民権運動

幕末には坂本龍馬、武市瑞山（半平太）ら勤王の志士を輩出して明治維新の礎を築き、維新後においても「自由は土佐の山間より」といわれるように自由民権運動発祥の地として、その思想を全国に発信した。城下の板垣退助、片岡健吉、坂本直寛をはじめ、先進的な憲法草案を起草した植木枝盛や、全国初の婦人参政権を要求した楠瀬喜多、さらに土佐山では山嶽社を結成した和田三郎、春野では吉良順吉や細川義昌ら、多くの人材が活躍し、自由と平等の精神に培われた政治的伝統が育まれてきた。



■高知城



■板垣退助像

○市政のあゆみ

市制の施行は 1889(明治 22)年であり、以後、幾度かの合併を経ながら県都として発展してきた。1945(昭和 20)年 7 月の空襲により高知市中心部の建物はその大半が焼失し、さらに翌年 12 月には南海地震が発生し、強い揺れによる建物の倒壊や地盤沈下による浸水など大きな被害を受けたが、復興へのめざましい取り組みを経て地方中核都市として発展し、1998(平成 10)年には四国初の中核市となった。

現在、県民人口の 4 割以上の人々が暮らす地方中核都市であるとともに、みどり豊かな森林を持つ鏡村・土佐山村、県内有数の農業生産高を誇る春野町との合併により、中山間地域、田園地域、都市部がバランスよく調和し、仁淀川と、市内中心部を流れる鏡川などの清流を有する都市となっている。



■高知市の市街地

(3) 文化

○風土

高知市は、懐の深い中山間地域や生産力の高い田園地域、魚種が豊富な海域などの高い多様性と優位性を併せ持つ自然と、その自然に対して先人が営々と働きかけてきた歴史、そして自然と調和しながら発展した産業が織りなす、独特の文化が花開く土壌を培ってきた。

さらに、土佐国の中心地として発展してきた過程の中で、この地を訪れた多くの知識人や文化人の影響を受けながら文化の成熟度を高め、現代まで受け継いできた。

このような風土によって培われた明朗闊達で反骨精神の強い土佐人の気質は、江戸末期から明治にかけての幕末の志士や自由民権運動での活躍に現われただけでなく、現代においても、市民によるさまざまな地域コミュニティ活動を支える積極的な協働の精神として受け継がれている。

○地域に根ざした文化

高知市周辺の平野は県下有数の規模を誇り、食料の供給地として農業が発展してきた。江戸時代から現在まで連綿と続く日曜市をはじめとした街路市には、新鮮で豊富な食材が並び、高知市の地産地消の食文化を支えてきた。豪快な皿鉢料理に代表される「おきゃく」（宴会）や、大いに盛り上がる箸拳などは、土佐の宴席文化として広く注目されている。



■日曜市



■皿鉢料理

音楽、演劇、舞踊、美術、映画上映などの芸術文化については、市内各所で市民の多彩な活動が繰り広げられており、高知市文化祭や高知街ラ・ラ・ラ音楽祭などの大規模な文化的催しが市民の力で成功している。中でも、横山隆一など独特な作風を持つ作家を輩出したまんがや、原宿や札幌など全国各地の200 か所以上で開催されるまでに広がりを見せた本家本元のよさこい祭りなどは、自由で豊かな表現を基礎とした独特の芸術や文化として昇華し、日本国内だけでなく海外までその発信力が広がっている。



■よさこい祭り

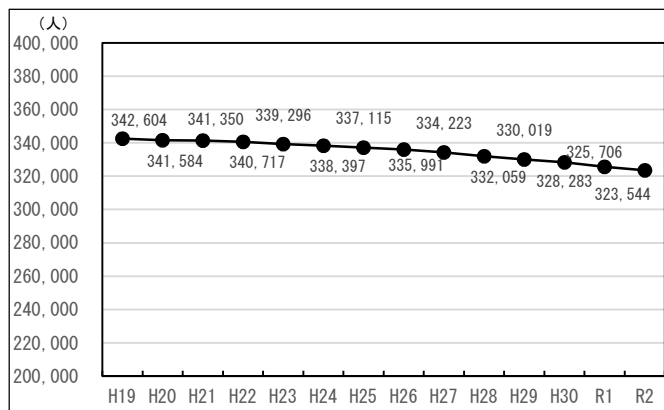
[2] 中心市街地の現状分析

(1) 人口・世帯

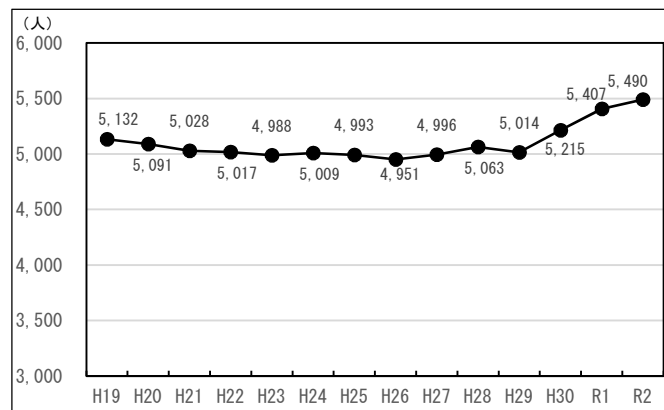
① 人口

市全体の人口の推移を見ると、平成23年度から令和2年度までに約4.6%（15,752人）減少している。

一方、中心市街地（本基本計画の区域をいう。以下同じ。）の人口は平成26年度を底にそれまでの減少トレンドを脱し増加に転じている。中心市街地の人口の市全体に占める割合は平成23年度時点の約1.47%と比較して、令和2年度は約1.70%と上回っている。



■市全体の人口の推移

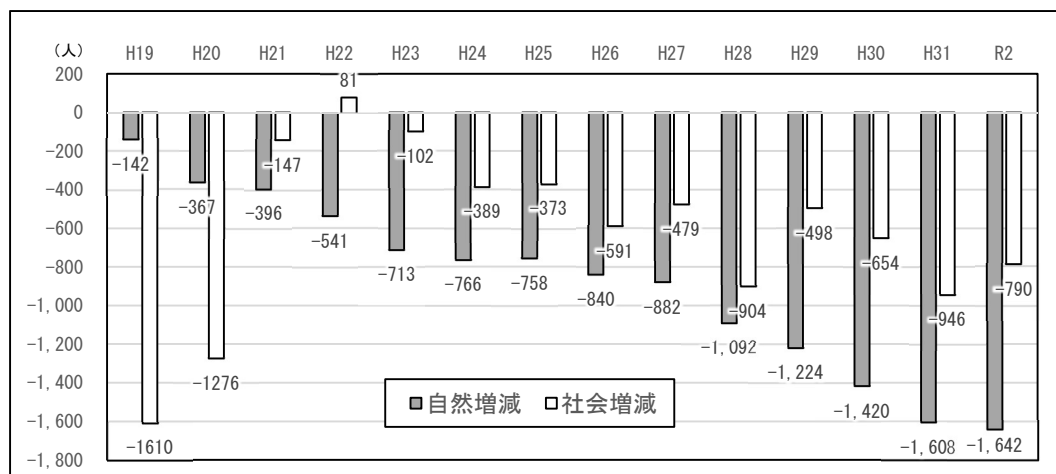


■中心市街地の人口の推移

※資料：住民基本台帳、各年度3月31日現在値（外国人住民を含む。）

高知市全体の人口減少要因を見るため、推移の内訳を自然増減と社会増減に分けて見る。

全国的な少子高齢化の流れと同じく、高知市も出生件数の減少と死亡件数の増加による自然減の傾向が大きくなっている。また、社会増減は、第2次産業等の雇用環境を大幅に悪化させた平成20年のリーマンショックを引き金とする全国的な景気低迷等を背景に、転出件数が大幅に減少し、平成21年～平成23年は増減の幅が小さくなったものの、平成23年以降は再び転出超過による社会減となり、年度によって幅はあるものの、社会減の数値は大きくなっている。

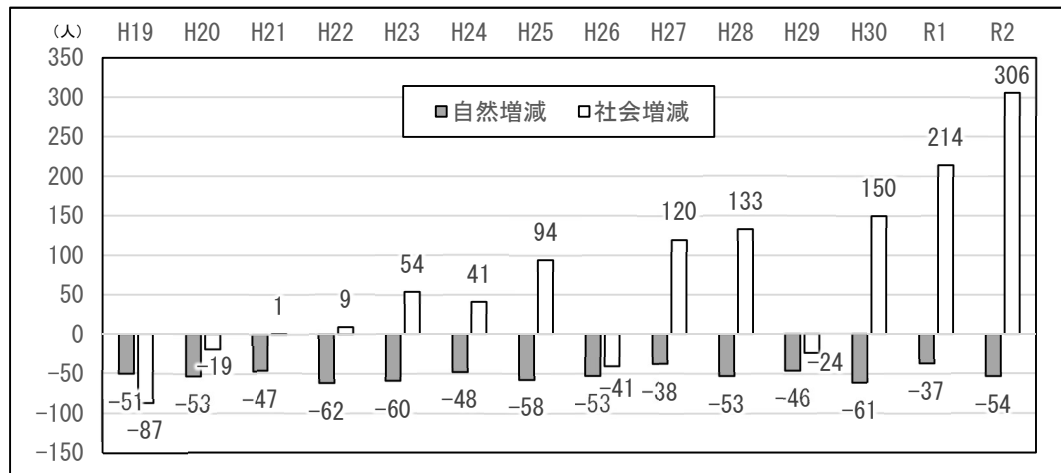


■市全体人口の自然増減及び社会増減の推移

※市全体の出生、死亡、市全体の転入、転出は、各年高知市統計書の数値

※平成24年7月9日の住民基本台帳法改正により、外国人が住民基本台帳の登録対象となったため、平成24年7月からは人口の数値に外国人が含まれている。

次に、中心市街地の自然増減、社会増減を見ると、自然増減は出生数に対し死亡数が超過しており自然減となっているが、傾向としてはともに横ばいである。一方、社会増減は平成21年以降、平成26年と平成29年を除き、社会増の数値が大きくなっている。



■中心市街地の人口の自然増減及び社会増減の推移

※出生、死亡、中心市街地への転入、中心市街地からの転出は、各年1月～12月の住民基本台帳届出件数

※平成24年7月9日の住民基本台帳法改正により、外国人が住民基本台帳の登録対象となったため、平成24年7月からは人口の数値に外国人が含まれている。

中心市街地は高知市全体と比べ高齢化※1が進んでいるため、一貫して出生より死亡が多く、自然減となっているが、その規模は毎年40人から60人程度の小規模な減少に留まっている。

一方、社会増減は、平成21年以降、平成26年、平成29年は転出者が転入者を上回ったものの、それ以外の年は転入が転出を上回り、増加の幅が大きくなっている。

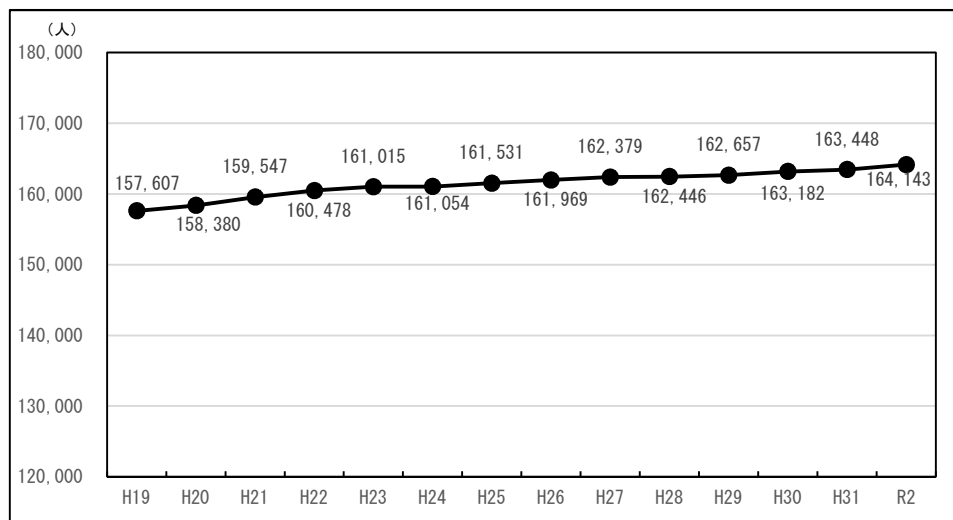
この要因としては、平成30年には「ロイヤルガーデンはりまや町」、「クレアホームズ升形 ザ・レジデンス」、「クレアホームズ高知駅前 ザ・レジデンス」が完成するなど、これまでの中心市街地活性化施策による居住環境の向上、高齢者等を中心とした街なか居住ニーズの高まりを背景にしていると考えられる。

※1 P8③高齢化率参照

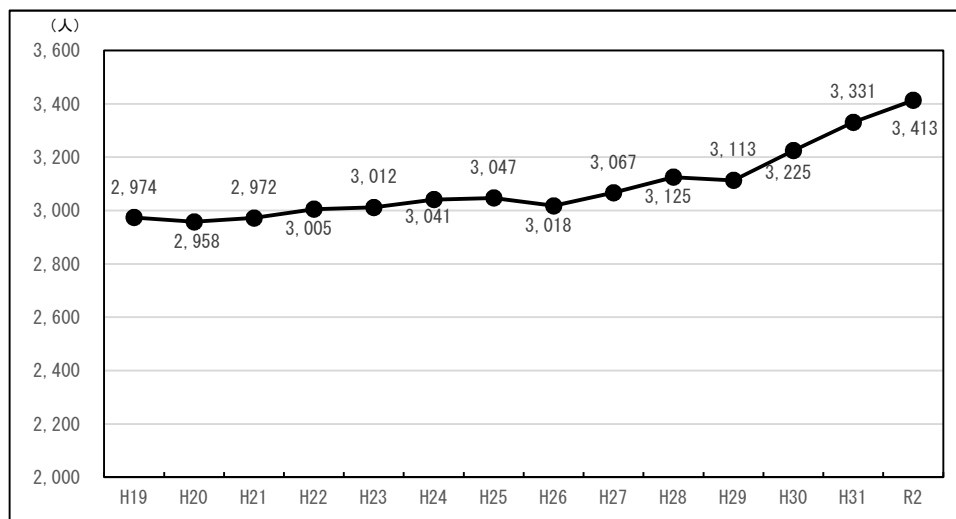
②世帯数

平成23年度から令和2年度までの世帯数の推移を見ると、高知市全体では約1.9%（3,128世帯）増加しているのに対し、中心市街地では、約13.3%（401世帯）増加しており、とくに平成29年度以降の増加幅が大きい。

1世帯当たりの人員を算出すると、令和2年度末時点で市全体では1.97人／世帯、中心市街地では1.61人／世帯となっており、市全体と比べ中心市街地では、単身者や少人数世帯が多いと推察される。



■市全体の世帯数の推移



■中心市街地の世帯数の推移

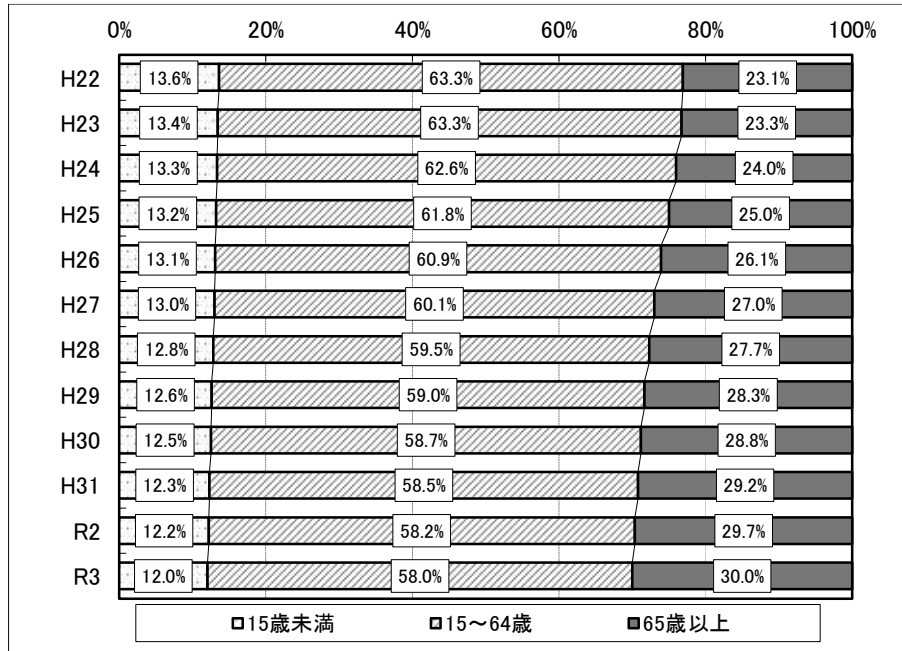
※資料：住民基本台帳（各年度末3月31日現在値）

■1世帯当たりの人員の推移（人）

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
市全体	2.11	2.10	2.09	2.07	2.06	2.04	2.03	2.01	1.99	1.97
中心市街地	1.66	1.65	1.64	1.64	1.63	1.62	1.61	1.62	1.62	1.61

③高齢化率

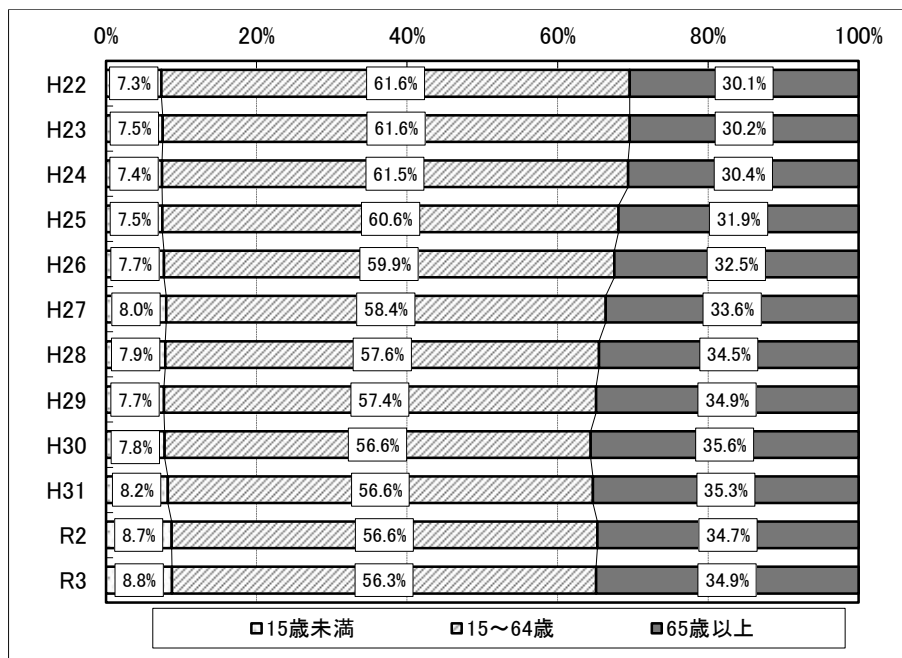
本市の人口を年齢3区分で見ると、着実に高齢化が進んできており、65歳以上の割合は令和3年現在30.0%と、全国と比べ数値も若干高くなっている。一方、中心市街地は市全体と比べて高齢化率は高いが、平成30年以降はそれまでの増加傾向に歯止めがかかっている。また、15歳未満の割合は平成23年と比べて増加している。



■高知市の年齢3区分別人口の変遷

※資料：住民基本台帳

※端数処理等の関係で表記数値合計は100%にならない。



■中心市街地の年齢3区分別人口の変遷

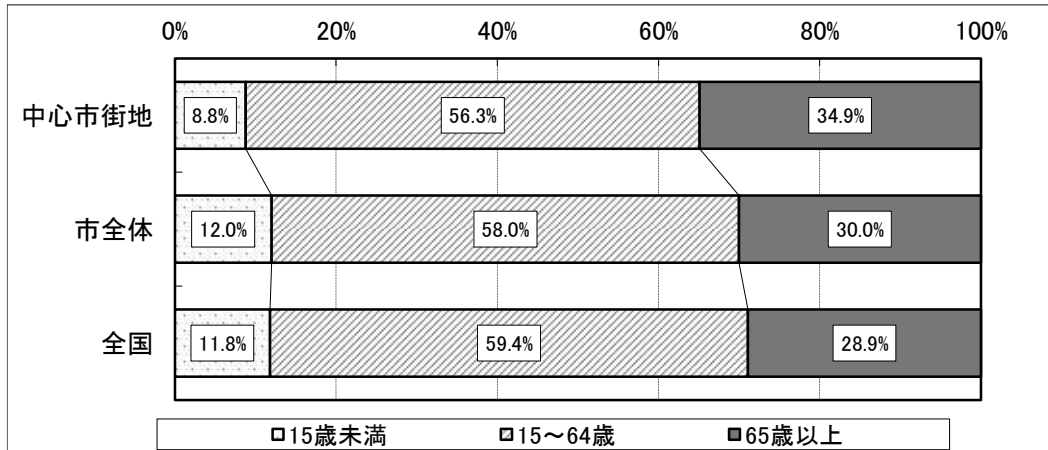
※資料：住民基本台帳

※端数処理等の関係で表記数値合計は100%にならない。

■年齢3区分別人口割合（令和3年）

	15歳未満	15～64歳	65歳以上
中心市街地	8.8%	56.3%	34.9%
市全体	12.0%	58.0%	30.0%
全国	11.8%	59.4%	28.9%

※資料：全国、市全体は国勢調査、中心市街地（本活性化基本計画の区域）は住民基本台帳



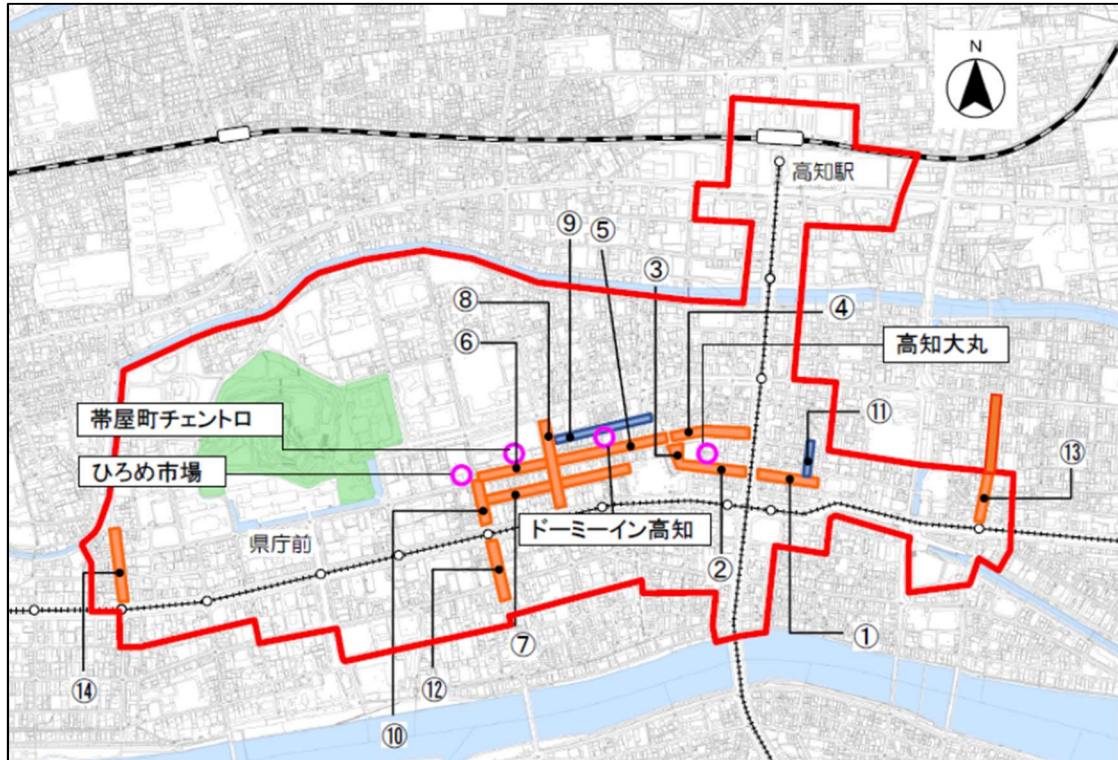
■年齢3区分別人口割合（令和3年）

(2) 経済活力状況

①中心市街地小売商業の状況

中心市街地には14の商店街があり、県下で唯一の百貨店である高知大丸も立地している。

また、他市に例を見ない「ひろめ市場」は、観光客にとって土佐のおきやく文化を体験できるスポットとして賑わっており、年間約300万人が利用している。平成17年のダイエー撤退後10年近く活用がなかった旧ダイエーショッパーズプラザ跡地には新たな複合施設として平成27年に「帯屋町CENTRO（チェントロ）」がオープンした。商業施設「リブロード」は平成26年に閉館し、跡地にはホテル「ドーマーイン高知」が平成29年にオープンしている。



■中心市街地の商店街分布

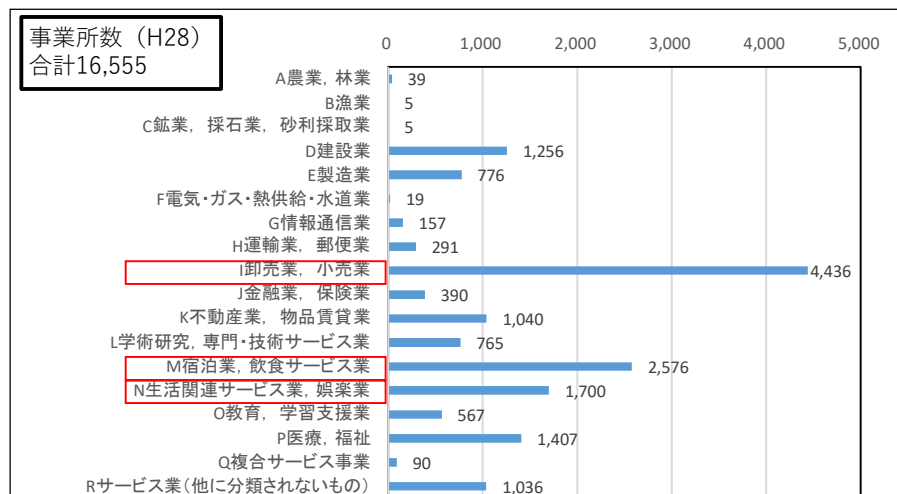
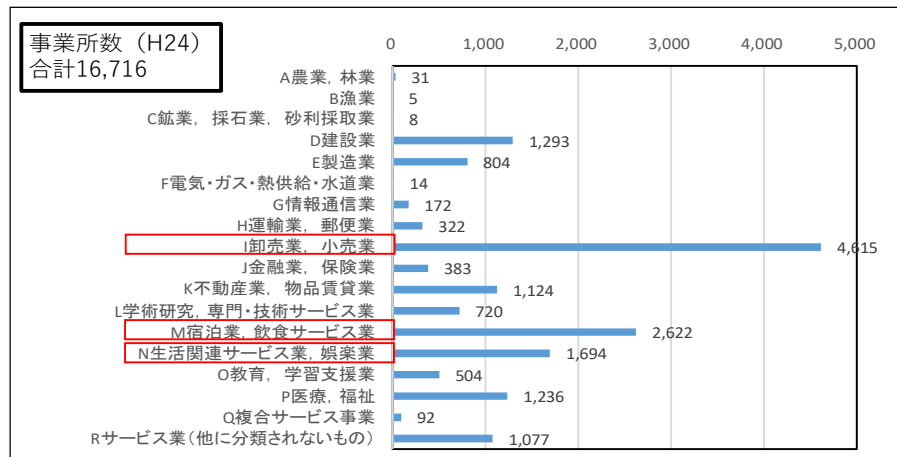
■商店街一覧

番号	商店街	組合の有無	番号	商店街	組合の有無
①	はりまや橋商店街	○	⑧	中の橋商店街	○
②	京町商店街	○	⑨	柳町商店街	
③	新京橋商店街	○	⑩	大橋通り商店街	○
④	壺番街商店街	○	⑪	魚の棚商店街	○
⑤	帯屋町一丁目商店街	○	⑫	天神橋通商店街	○
⑥	帯屋町二丁目商店街	○	⑬	菜園場商店街	○
⑦	おびさんロード商店街	○	⑭	升形商店街	○

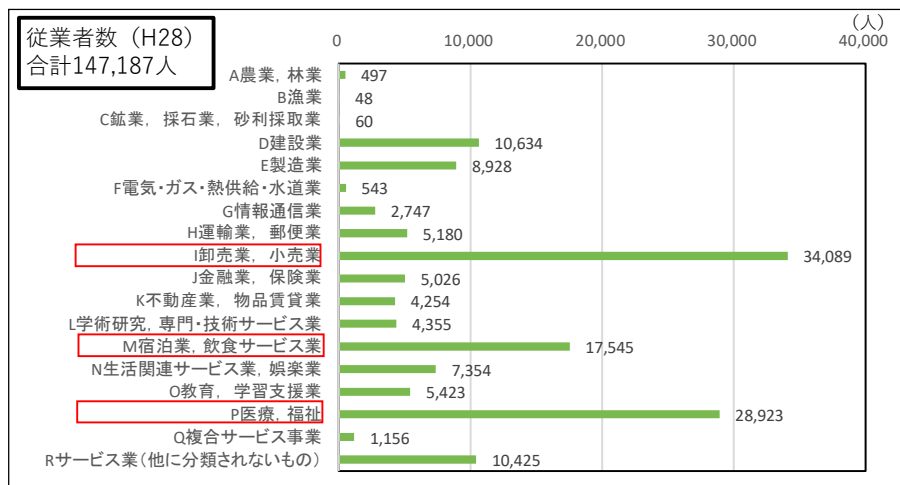
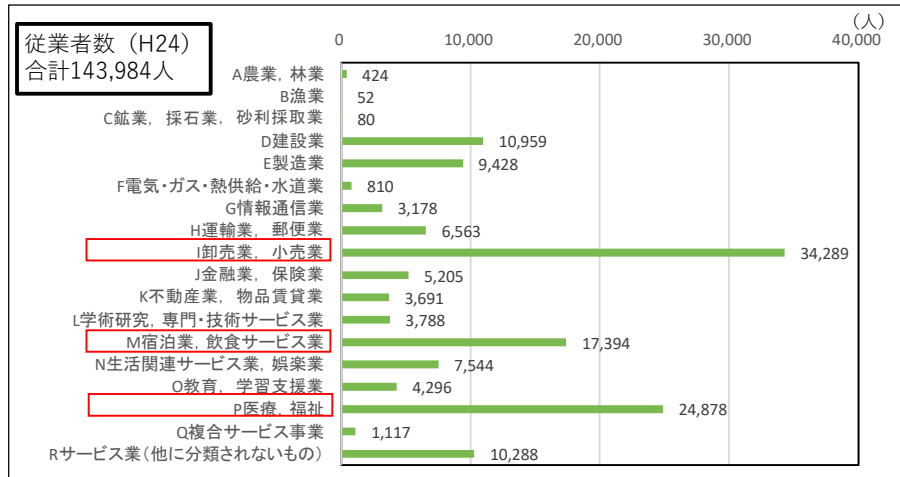
②産業分類別事業所数及び従業者数の推移

高知市の産業分類別事業所数は平成24年、平成28年ともに多い順から「卸売業、小売業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「生活関連サービス業、娯楽業」となっており、従業者数は「卸売業、小売業」、「医療、福祉」、「宿泊業、飲食サービス業」の順であり、こちらも平成24年と平成28年に変化は見られない。

※直近の経済センサス活動調査は令和3年実施であり、確報は未発表のため、平成24年と平成28年の比較とする。



■ 高知市の産業分類別事業所数の推移（平成24年，平成28年）



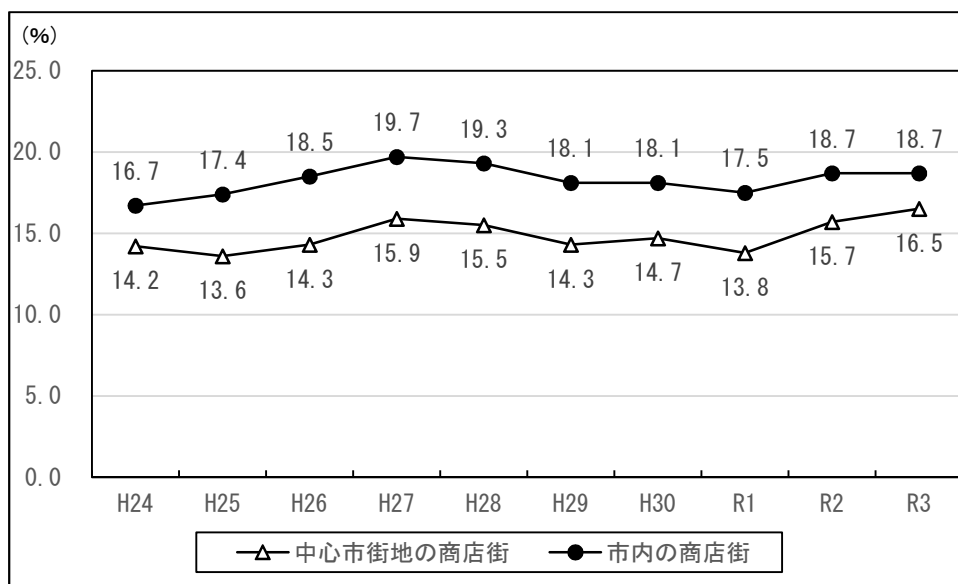
■ 高知市の産業分類別従業者数の推移（平成24年，平成28年）

※データ：経済センサス活動調査

③商店街の空き店舗の状況

商店街の空き店舗率の推移を見ると、市全体及び中心市街地の商店街どちらも、平成27年から令和元年にかけて改善傾向であったが、中心市街地の商店街では令和2年に悪化に転じている。

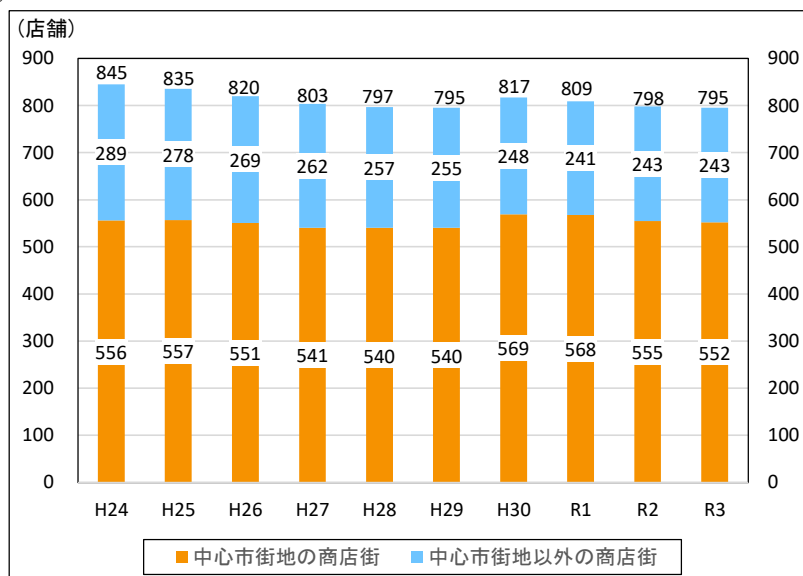
※中心市街地の範囲はP10の商店街分布図を参照



■中心市街地商店街の空き店舗率の推移（1階路面店のみ）

※データ：「商店街空き店舗調査」（高知市、高知商工会議所実施）

商店街の営業店舗数の推移を見ると、市内の商店街は平成24年、中心市街地商店街は平成25年をピークに以降は減少が続いた後、菜園場商店街の区域拡大により平成30年に増加するものの、再び減少傾向となっている。

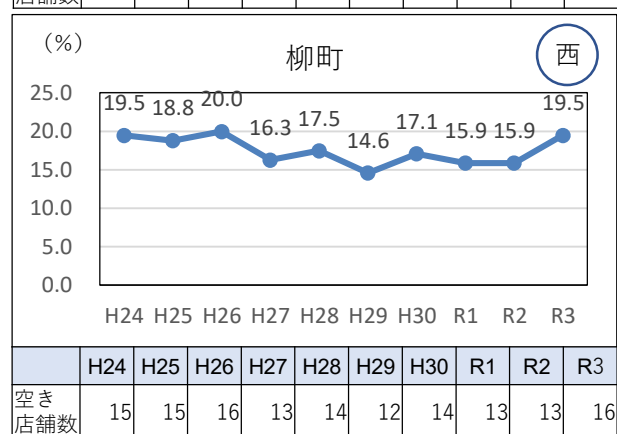
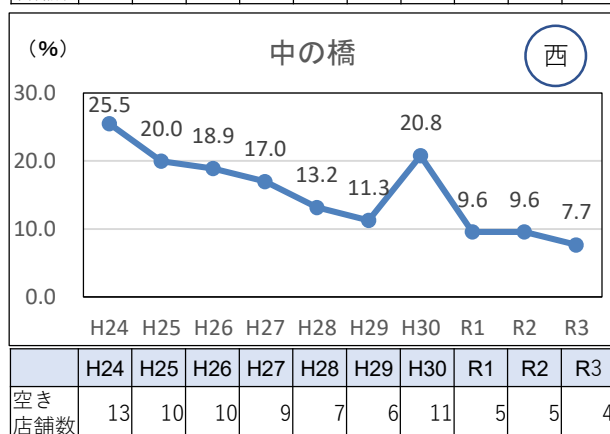
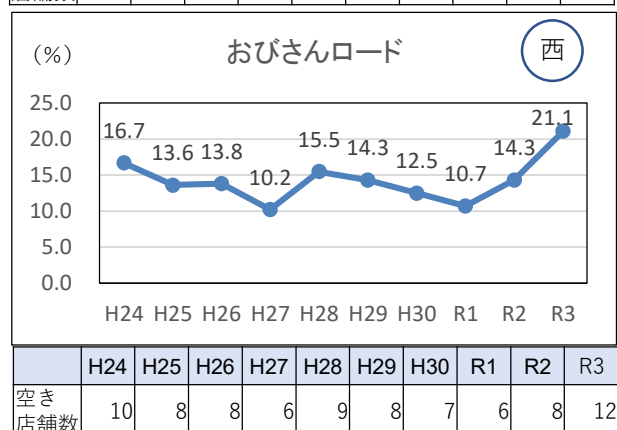
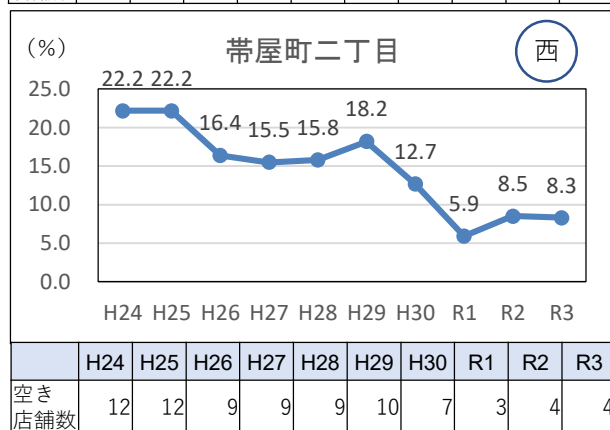
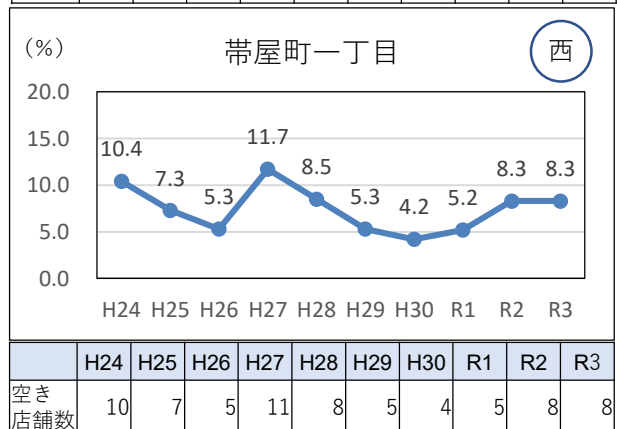
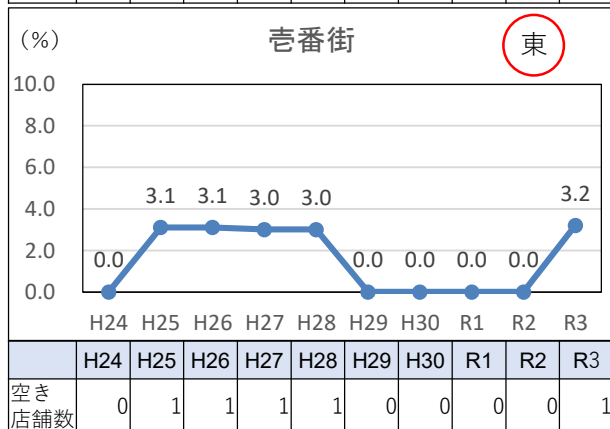
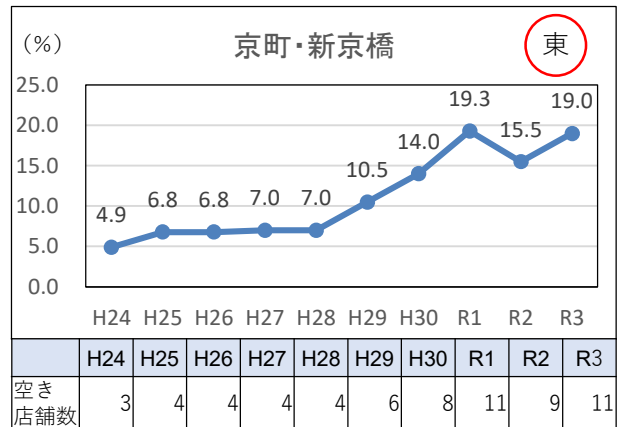
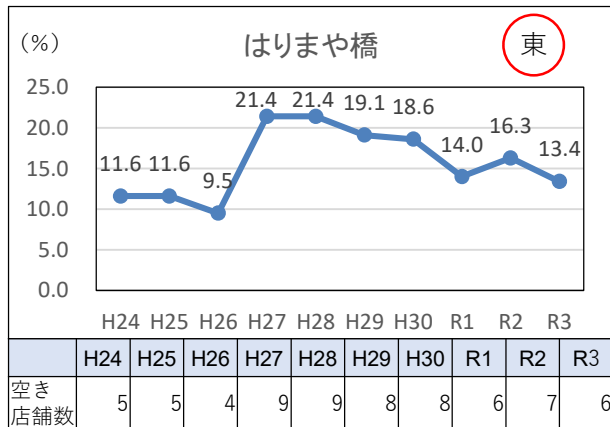


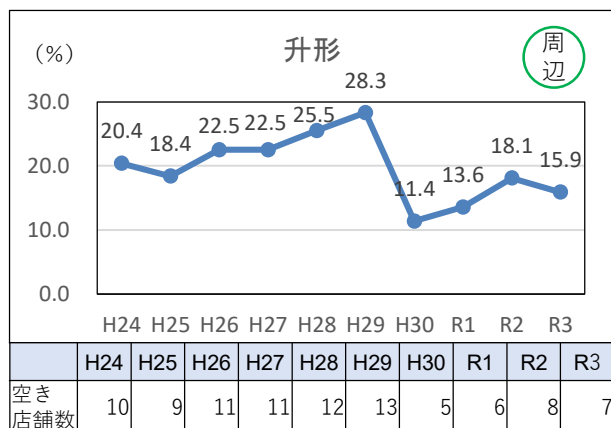
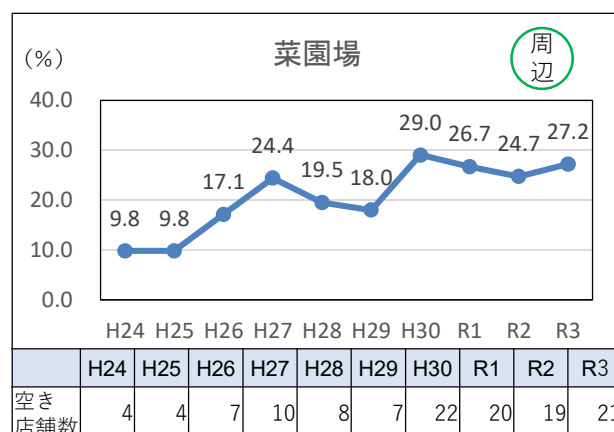
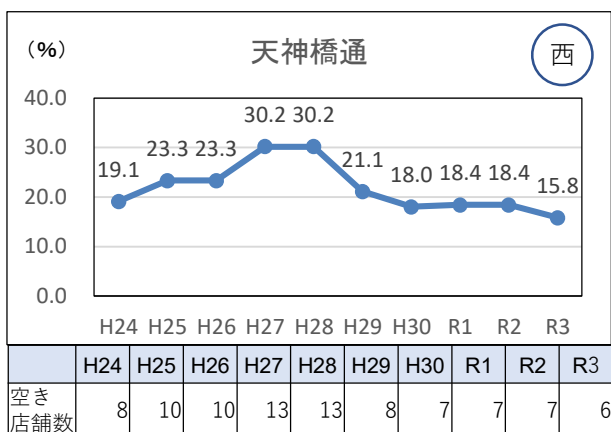
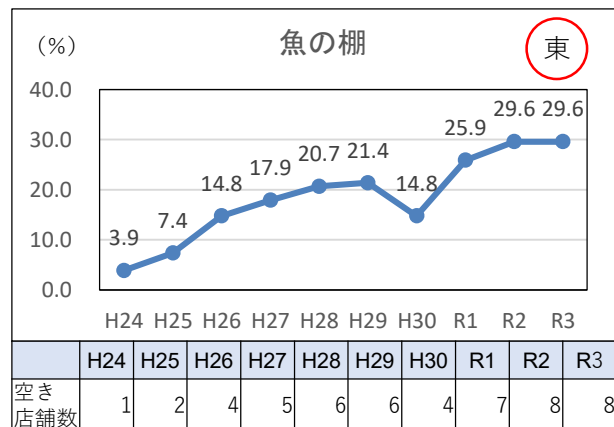
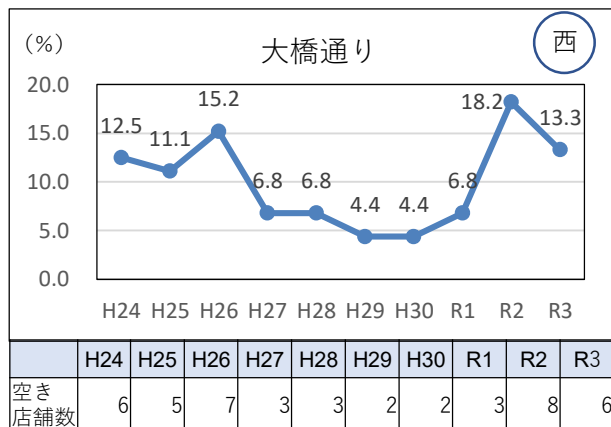
■中心市街地及び中心市街地以外の商店街の営業店舗数の推移（1階路面店のみ）

※データ：「商店街空き店舗調査」（高知市、高知商工会議所実施）

(参考資料) 商店街別の空き店舗率の推移

帯屋町一丁目、柳町及び壱番街がほぼ横ばいとなっているが、その他の商店街は増減の傾向がまばらであり、商店街のエリア別（西・東・周辺）でも顕著な傾向は見られない。





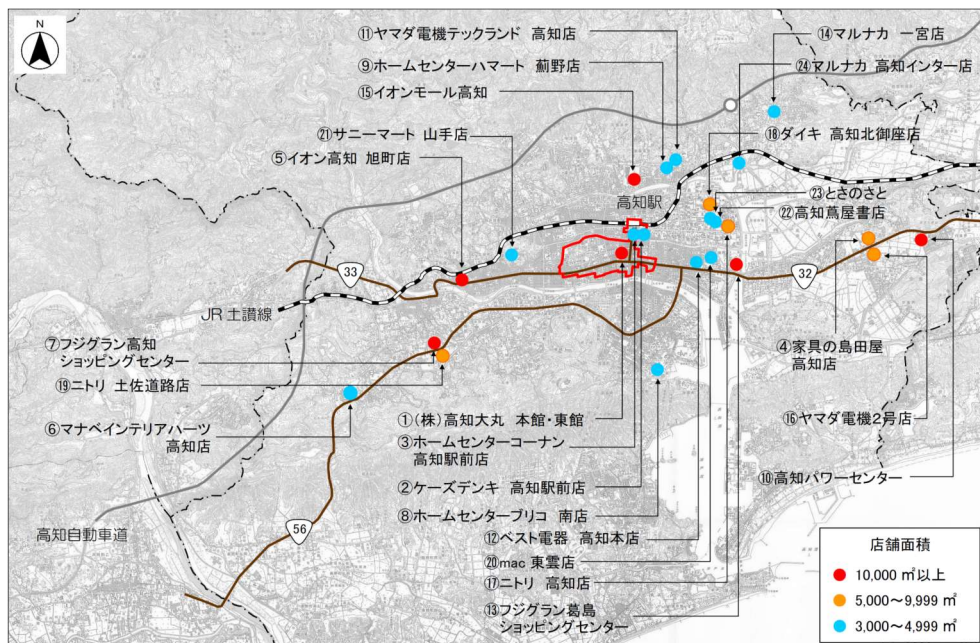
■商店街別の空き店舗率の推移 (H24-R3)

④大規模小売店舗の状況

中心市街地では、平成26年8月にリブロードが閉店し、大規模小売店舗は高知大丸など3店舗のみとなっている（令和4年3月現在）。一方、郊外では駐車場が整備されたロードサイド型店舗の立地が続いている。市内の店舗面積3,000㎡以上の小売店に占める中心市街地の店舗面積は12.1%となっている。

■大規模小売店舗一覧（店舗面積3,000㎡以上）

	大規模小売店舗の名称	開店日	建物の概要		中心市街地
			実態	店舗面積 (㎡)	
1	高知大丸 本館・東館	S30.11	百貨店	14,509	○
2	ケーズデンキ 高知駅前店	H21.12	専門店	4,250	○
3	ホームセンターコーナン 高知駅前店	H23.12	ホームセンター	4,411	○
4	家具の島田屋 高知店	S50.3	専門店	7,267	
5	イオン高知 旭町店	S53.8	スーパー	13,217	
6	マナベインテリアハーツ 高知店	H4.5	専門店	4,654	
7	フジグラン高知ショッピングセンター	H6.7	スーパー	14,360	
8	ホームセンターブリコ 南店	H9.3	ホームセンター	3,700	
9	ホームセンターハーマート 薊野店	H9.6	ホームセンター	4,247	
10	高知パワーセンター	H11.4	複合型専門店	10,015	
11	ヤマダ電機テックランド 高知店	H12.2	専門店	3,600	
12	ベスト電器 高知本店	H12.11	専門店	3,800	
13	フジグラン葛島ショッピングセンター	H12.11	スーパー	10,868	
14	マルナカ 一宮店	H12.12	スーパー	3,716	
15	イオンモール高知	H12.12	複合型ショッピングセンター	48,170	
16	ヤマダ電機 2号店	H20.5	専門店	6,988	
17	ニトリ 高知店	H20.12	専門店	5,317	
18	ダイキ 高知北御座店	H26.4.	ホームセンター	5,570	
19	ニトリ土佐道路店	H28.7	専門店	5,132	
20	mac 東雲店	H28.11	専門店	3,591	
21	サニーマート山手店	H30.5	スーパー	3,081	
22	高知蔦屋書店	H31.2	専門店	4,135	
23	とさのさと	R1.5	専門店	4,018	
24	マルナカ高知インター店	R1.8	スーパー	3,349	
合計				191,965	

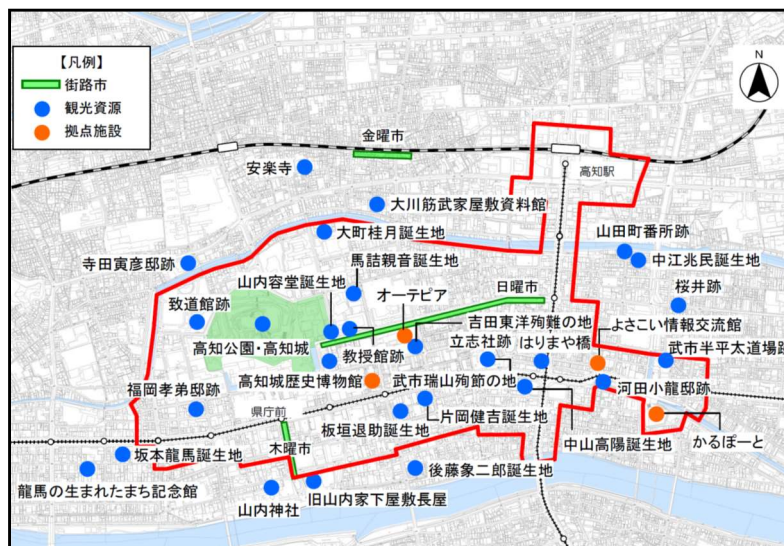


■大規模小売店舗の立地状況

(3) 観光

①観光資源

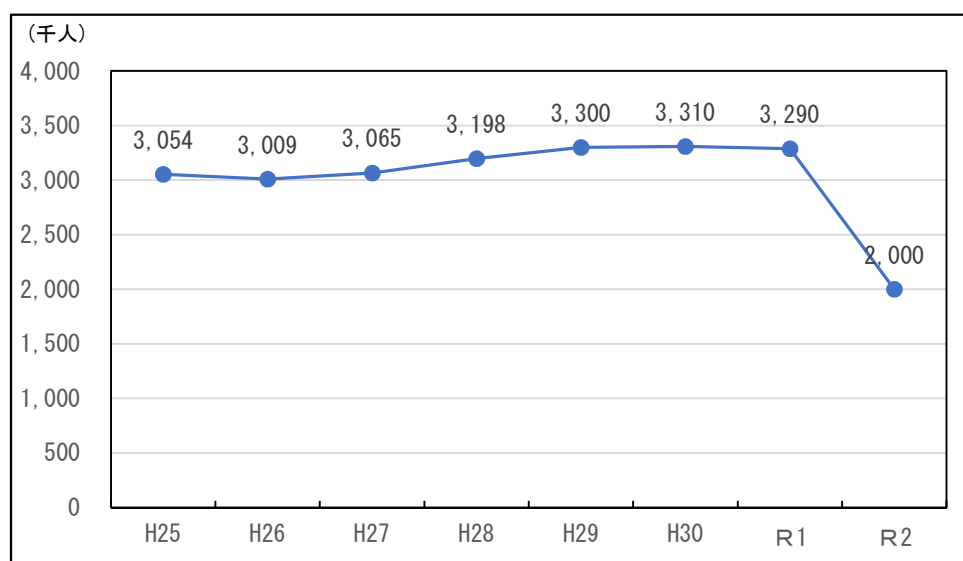
本市は、土佐藩の城下町として発展した都市であるとともに、明治維新や自由民権運動に大きな役割を果たした人材を多く輩出しているため、「高知城」や「坂本龍馬や板垣退助のゆかりの地」など中心市街地に観光資源が豊富に点在している。また、開設以来300年を超える「街路市」や、今や全国に広がっている「よさこい祭り」など、文化的な資源も貴重な観光資源となっている。平成29年3月には高知城歴史博物館が開館し、平成29年及び平成30年はそれぞれ大政奉還・明治維新150年にあたり、さまざまな取組を行った。



■中心市街地の観光資源の分布状況

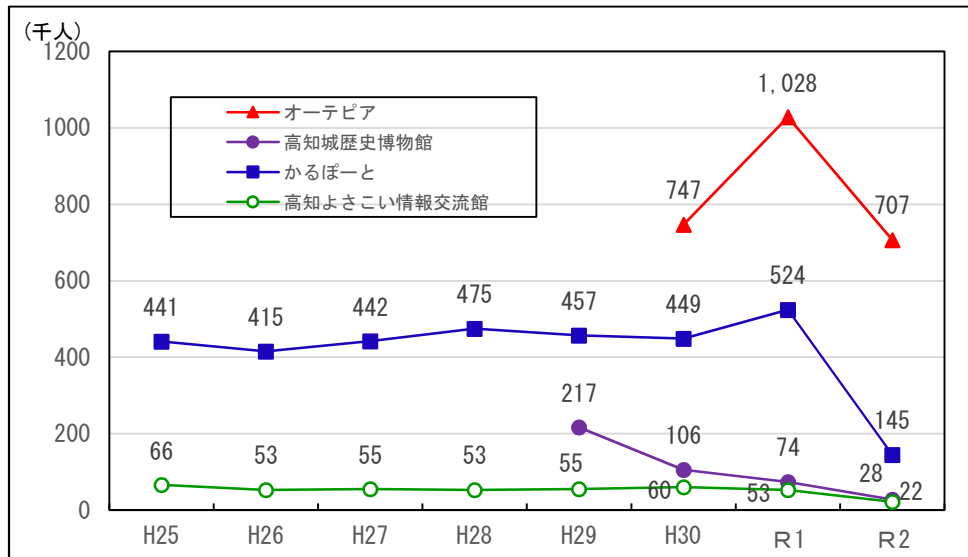
②高知市の観光客入込数

官民一体となって高知の食・歴史などをテーマとした取組が、県外観光客入込数の増加につながっており、近年は年間300万人を超えていたが、令和2年は新型コロナウイルスの影響により200万人に減少し、各観光施設の入込数も大幅に減少した。



■高知市の県外観光客数

※資料：県外観光客入込・動態報告書〔高知県〕

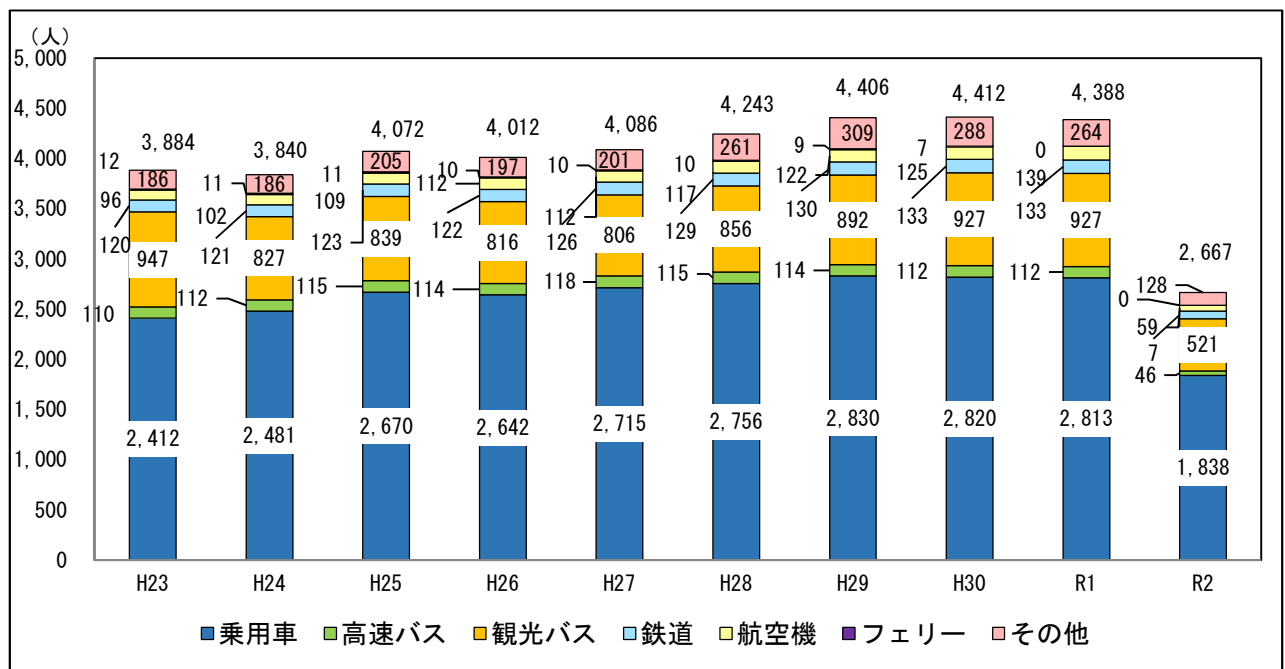


■ 中心市街地の観光施設入込数

※資料：県外観光客入込・動態報告書〔高知県〕 ※よさこい情報交流館は平成25年4月開設

令和2年はコロナの影響を受けているため特異値とし、令和元年と平成27年を比較する。乗用車については、令和元年/平成27年比は3.6%増加（前回平成27年/平成23年比：12.6%増加）、観光バスについては令和元年/平成27年比は15.0%増加（平成27年/平成23年比：14.9%減少）といずれも比率は増加傾向にある。

令和2年はすべての交通手段について対前年比41%～65%の落ち込みとなった。



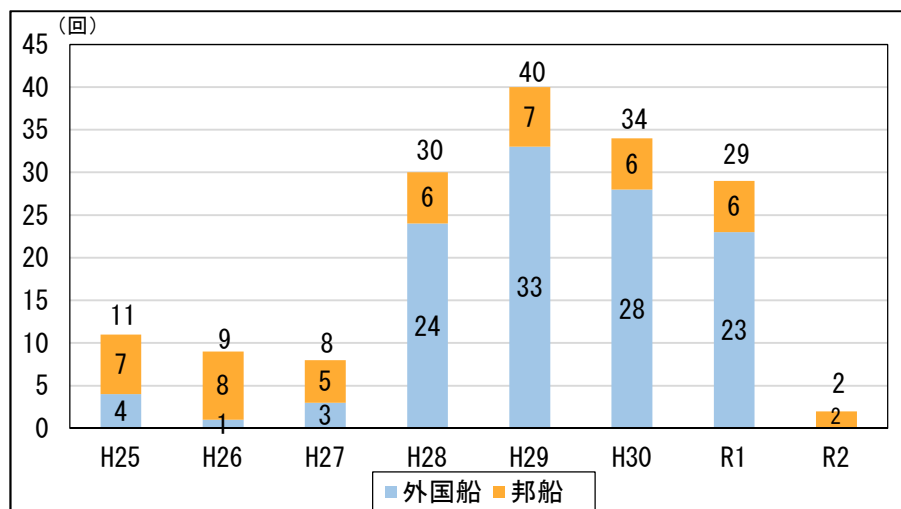
■ 交通機関別観光客占有率の推移（高知県内）

※資料：県外観光客入込・動態報告書〔高知県〕

③クルーズ客船の寄港回数

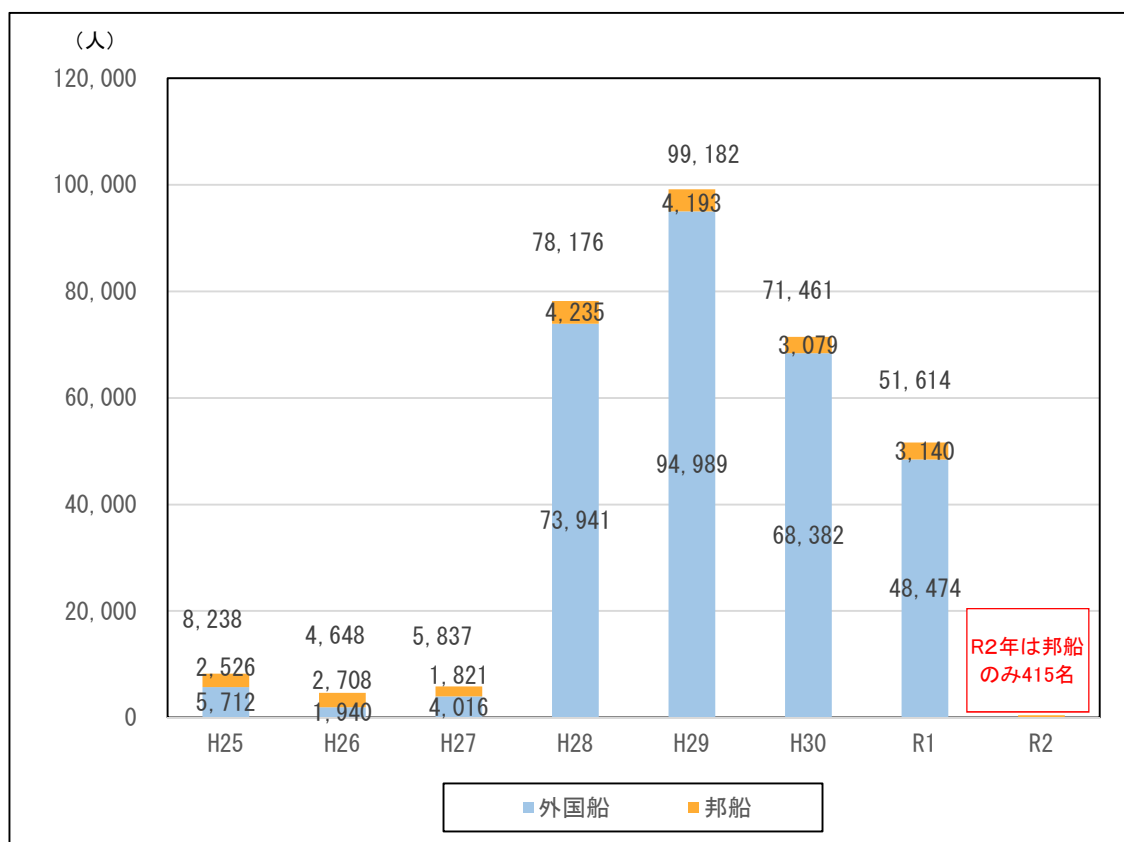
寄港回数について、邦船についてはほぼ横ばいであるが、外国船については平成29年度に30回を超えた以降は減少し、令和2年度は新型コロナウイルスの影響により外国船の寄港はなく、邦船2隻のみの寄港となった。

乗船客数は、寄港回数の推移と同様に平成29年度に9万人を超えたが、以降は減少が続き、令和2年度は対前年比0.8%の落ち込みとなった。



■クルーズ客船の寄港回数の推移

※データ：高知県港湾振興課

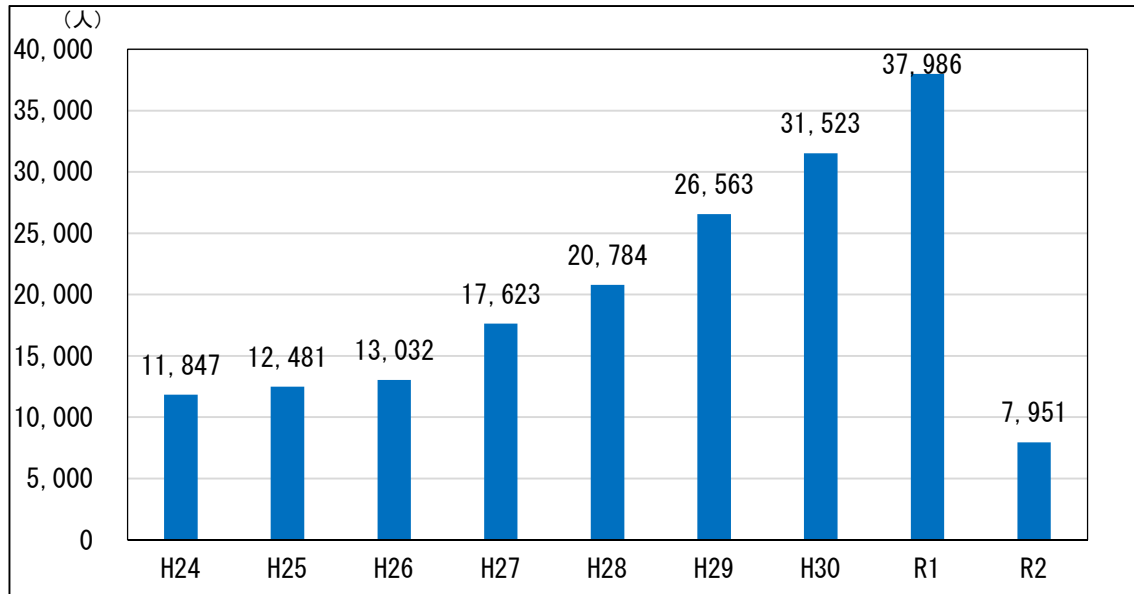


■クルーズ船の乗船客数の推移

※データ：高知県港湾振興課

④高知市の外国人観光客

平成24年以降増加しており、令和元年までの直近5年間は対前年比で平均24%増と着実に増加していたが、新型コロナウイルスの影響により令和2年は対前年比20%の減少となった。

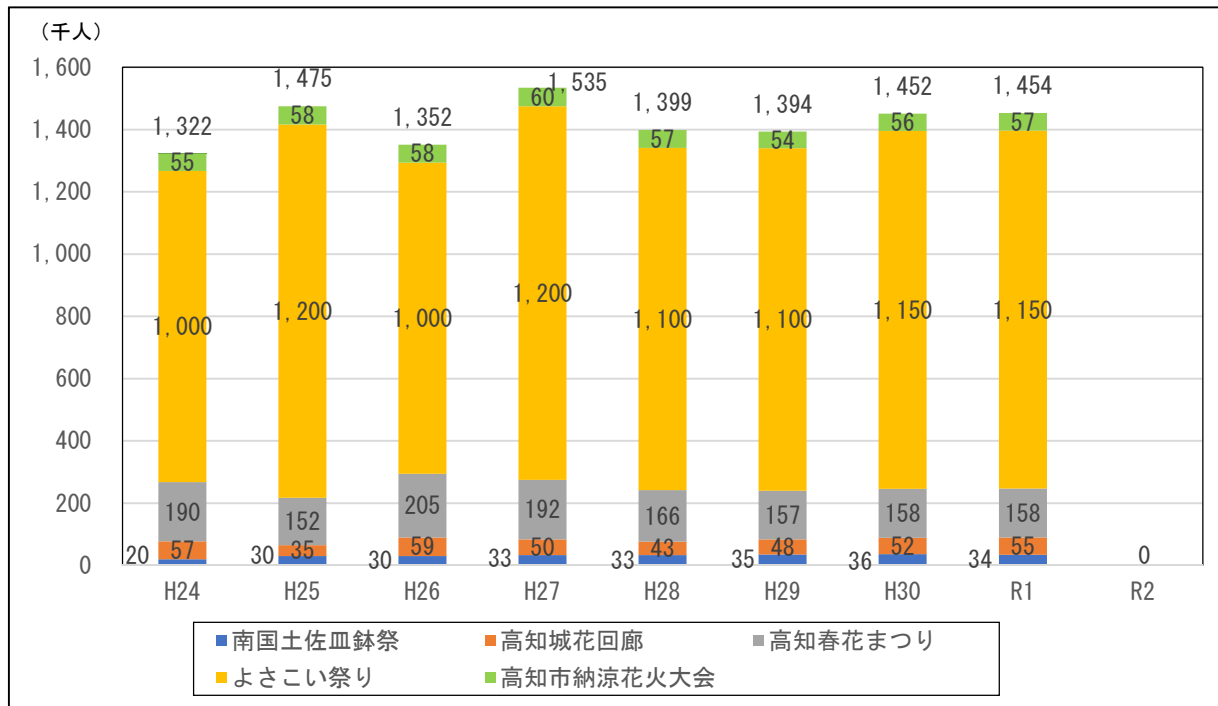


■外国人延べ宿泊者数の推移（従業員数10人以上の施設）

※資料：観光庁「宿泊統計調査」＜市区町村別統計＞参考第8表「施設所在地、従業員数別、外国人延べ宿泊者数」

⑤中心市街地での主要イベント入込客数

中心市街地での主要イベントの入込客数について、令和元年までは140万人前後を推移していたが、令和2年は新型コロナウイルスの影響により全て中止となった。



■中心市街地でのイベント入込客数推移

※データ：県外観光客入込・動態調査（高知県）

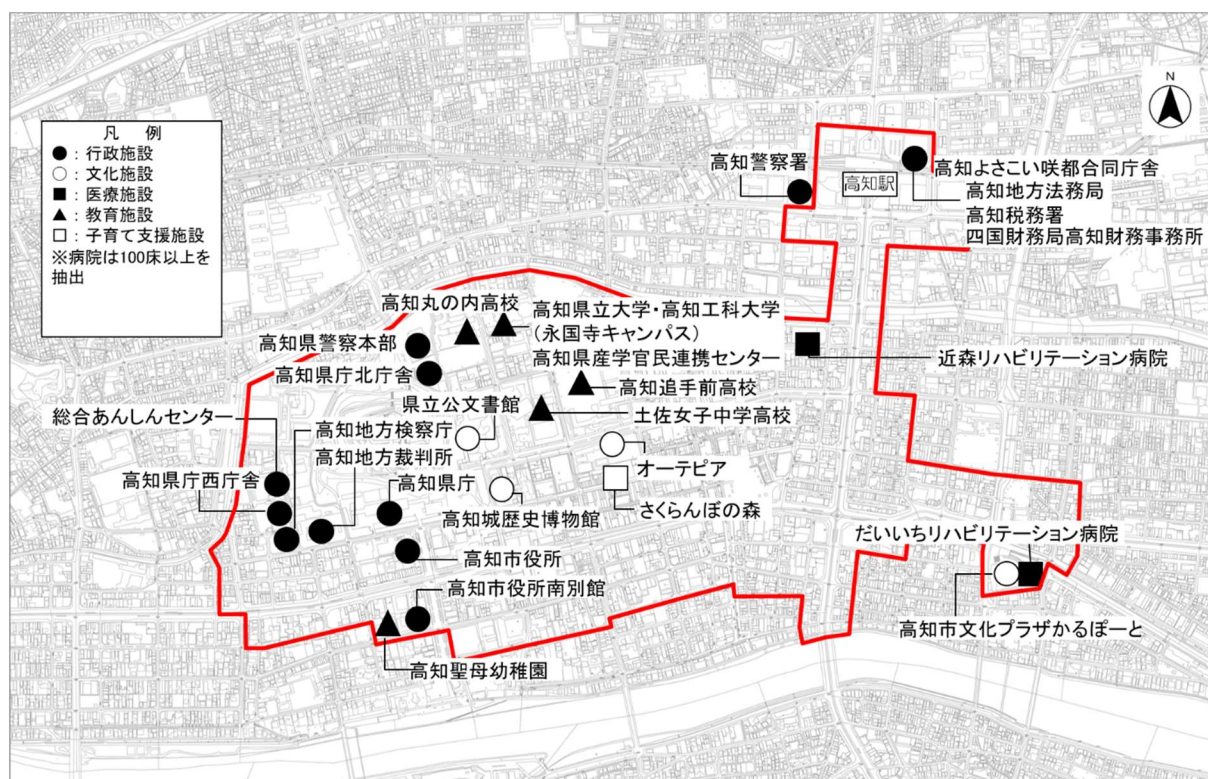
(4) 都市機能関係

①主要公共施設等の立地状況

中心市街地には、市役所や県庁をはじめとする主要な公共施設や医療・福祉施設の多くが集積している。高知県立大学永国寺キャンパスでは、老朽化した学舎を新築・改修して再整備を行い、平成 27 年に文化学部が拡充された。あわせて、同キャンパス内に高知工科大学経済・マネジメント学群が、平成 27 年には高知県産官学連携センター（ココプラ）が設置されるなど、「知の拠点」として拡充・整備がすすめられている。また、平成 29 年には高知県立高知城歴史博物館、平成 30 年にはオーテピアが開館し、追手筋から商店街への来街者の回遊性が高まっている。令和 2 年には高知市役所本庁舎が再整備、高知県立公文書館が新たに整備されている。

■中心市街地における公共施設等の整備状況

施設名称	整備時期
高知県立大学永国寺キャンパス	H27年4月 文化学部の拡充、高知工科大学経済・マネジメント学群の設置
高知県産学官民連携センター（ココプラ）	H27 年 4 月 開設
高知県立高知城歴史博物館	H29 年 3 月 開館
オーテピア（図書館・声と点字の図書館・科学館）	H30 年 7 月 開館
高知市役所本庁舎	R2 年 1 月 供用開始
高知県立公文書館	R2 年 4 月 開館



■主要公共施設等の位置

※令和4年3月現在

■主要公共施設等一覧

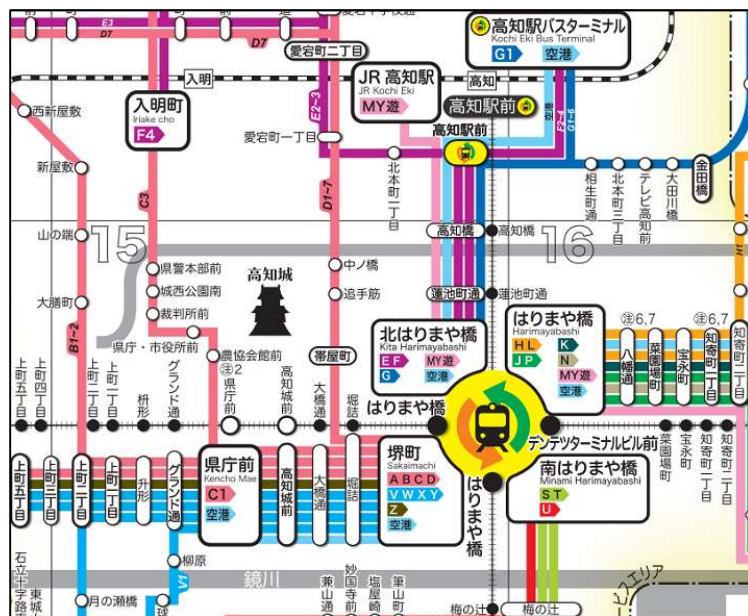
	中心市街地内	中心市街地周辺	
行政施設	高知地方方法務局 高知税務署 四国財務局高知財務事務所 高知地方検察庁 高知地方裁判所 高知県庁 高知市役所 高知県警察本部 消防局（総合あんしんセンター内） 保健所（総合あんしんセンター内）	中央消防署 高知中央郵便局 高知警察署	
文化施設	オーテピア 高知県立公文書館 高知県立高知城歴史博物館 中央公民館 高知市文化プラザかるぽーと 横山隆一記念まんが館 県民文化ホール	江ノロ市民図書館 江ノロコミュニティセンター 龍馬の生まれたまち記念館	
医療施設	だいいちリハビリテーション病院 近森リハビリテーション病院	近森病院第二分院 高知記念病院 土佐病院 愛宕病院 高知病院 国吉病院 上町病院 近森病院	近森病院外来センター 近森オルソリハビリテーション病院 田辺病院 岡村病院 細木病院 細木ユニティ病院 田中整形外科病院
福祉施設		保健福祉センター 江ノロ保育園 江ノロ東保育園 つくし保育園 南街保育園 こうちまち保育園 たかしろ乳児保育園 高知聖園マリア園 丸の内保育園	江陽保育園 さえんば保育園 小高坂保育園 小高坂双葉園 上街保育園 石立保育園 潮江双葉園 筆山保育園
教育施設	高知県立大学（永国寺キャンパス） 高知工科大学（永国寺キャンパス） 高知追手前高等学校 高知丸の内高等学校 土佐女子中学校・高等学校 高知県産学官民連携センター（ココブラ）	少年補導センター 高知県教育センター分館 江ノロ養護学校 盲学校 高知小津高等学校 高知北高等学校 太平洋学園高等学校 土佐中学校・高等学校 愛宕中学校 城西中学校 城東中学校 潮江中学校	高知大学附属中学校 高知大学附属小学校 小高坂小学校 第四小学校 江ノロ小学校 江陽小学校 はりまや橋小学校 第六小学校 あたご幼稚園 高知聖園幼稚園 高知大学附属幼稚園 桜井幼稚園

※令和4年3月現在

(5) 交通

①公共交通機関（鉄道、路面電車、バス）

中心市街地の公共交通については、中心市街地北側に JR 高知駅が位置するとともに、はりまや橋を中心とした十字方向に路面電車と路線バスの経路が集中しており、JR 高知駅及びはりまや橋を中心に公共交通ネットワークが広がっている。



凡例

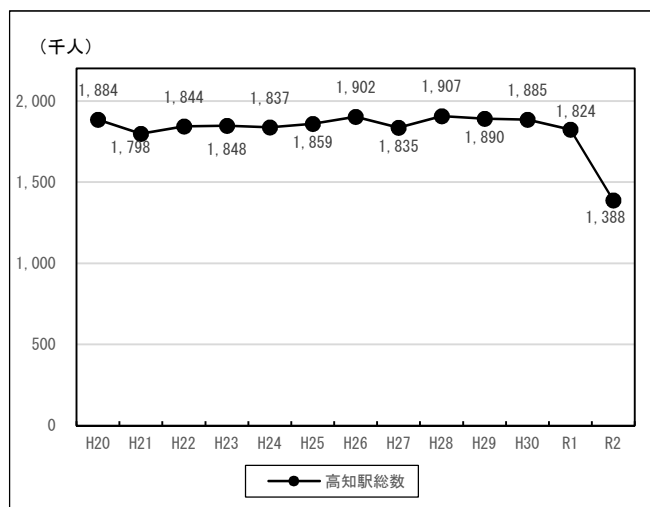


※資料：とさでん交通株式会社 HP

<鉄道の利用状況>

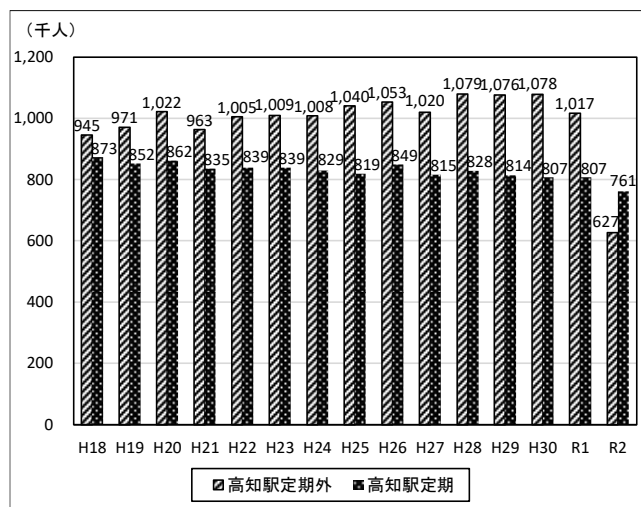
JR 高知駅の乗降客数は 180 万人～190 万人あたりで増減を繰り返しながらほぼ横ばいが続いていたが、令和 2 年はコロナの影響により対前年比 76%の減少となった。

また、コロナ前の令和元年までを見ると、高知駅の乗降客数のうち、定期外利用が増加傾向である一方、定期利用は減少傾向となっており、観光等、通勤・通学以外で高知駅を利用する人が増加していたと推察される。



■ JR 高知駅の乗降客数の推移

※資料：高知市統計書、くらし・交通安全課



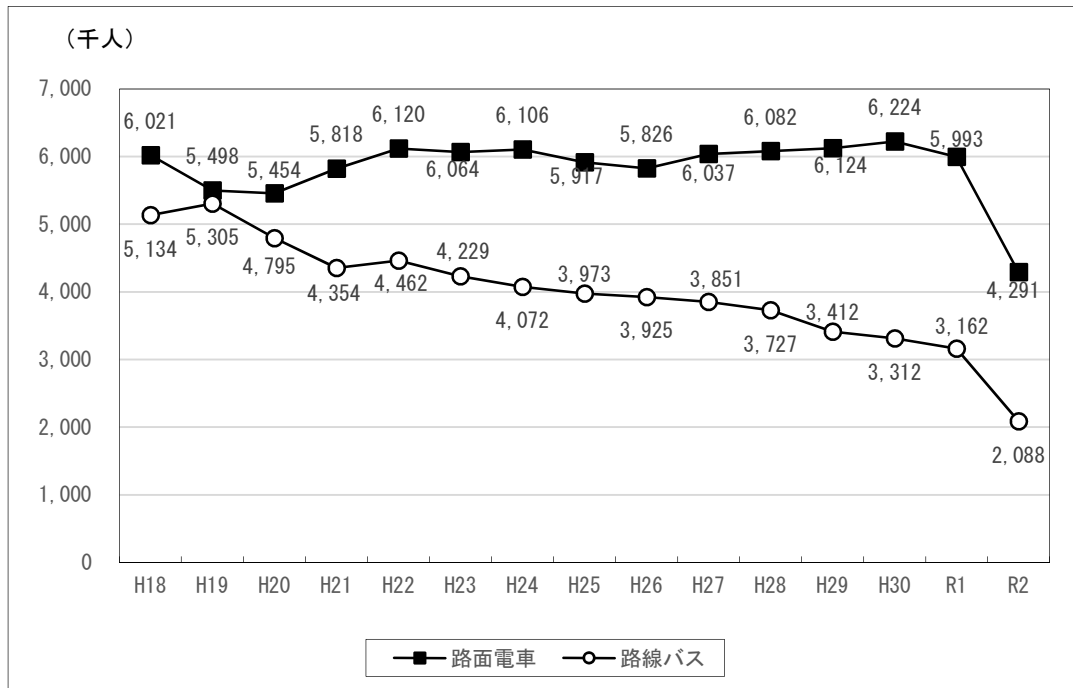
■ 高知駅乗降客数における定期利用・定期外利用の状況

※資料：高知市統計書、くらし・交通安全課

＜路面電車・路線バスの利用状況＞

路面電車については、平成26年度以降増加に転じ、平成30年度は過去10年最大の6,224千人となったが、令和元年度・令和2年度に減少に転じた。

路線バスについては、輸送人員が減少傾向になっている。



■路面電車と路線バスの乗客数の推移

※資料：高知市統計書、くらし・交通安全課
 ※乗客数は高知市外の路線の数値も含む。

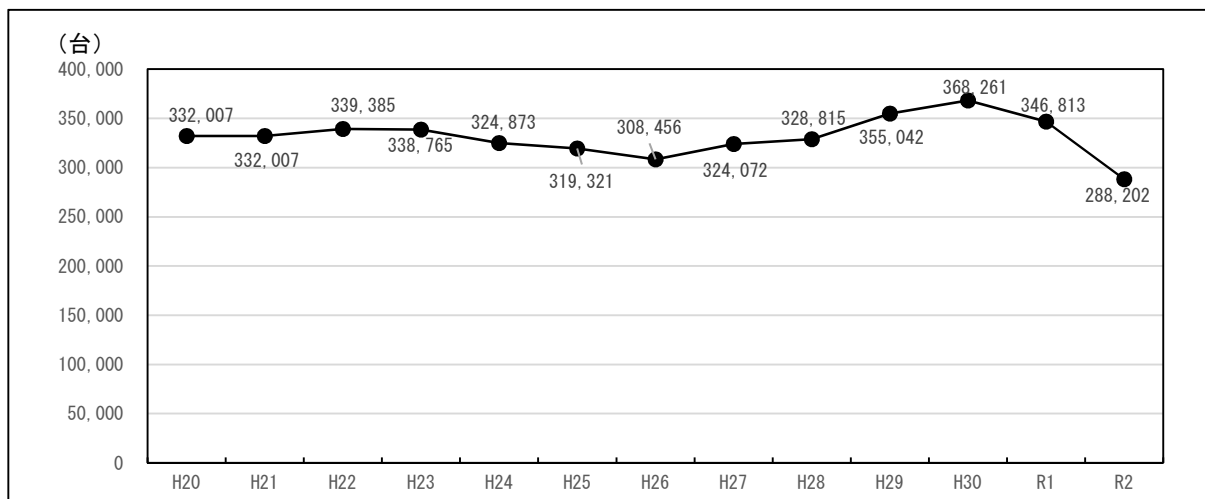
②自動車

＜中央公園地下駐車場の利用状況＞

平成23年までは年間利用台数約33万台で推移していたが、平成24年以降は減少し、平成26年に30万台と底を打った後、平成27年は増加に転じ、平成30年で36万台とピークに達した。しかし新型コロナウイルスの影響等により、令和2年で大幅に減少している。

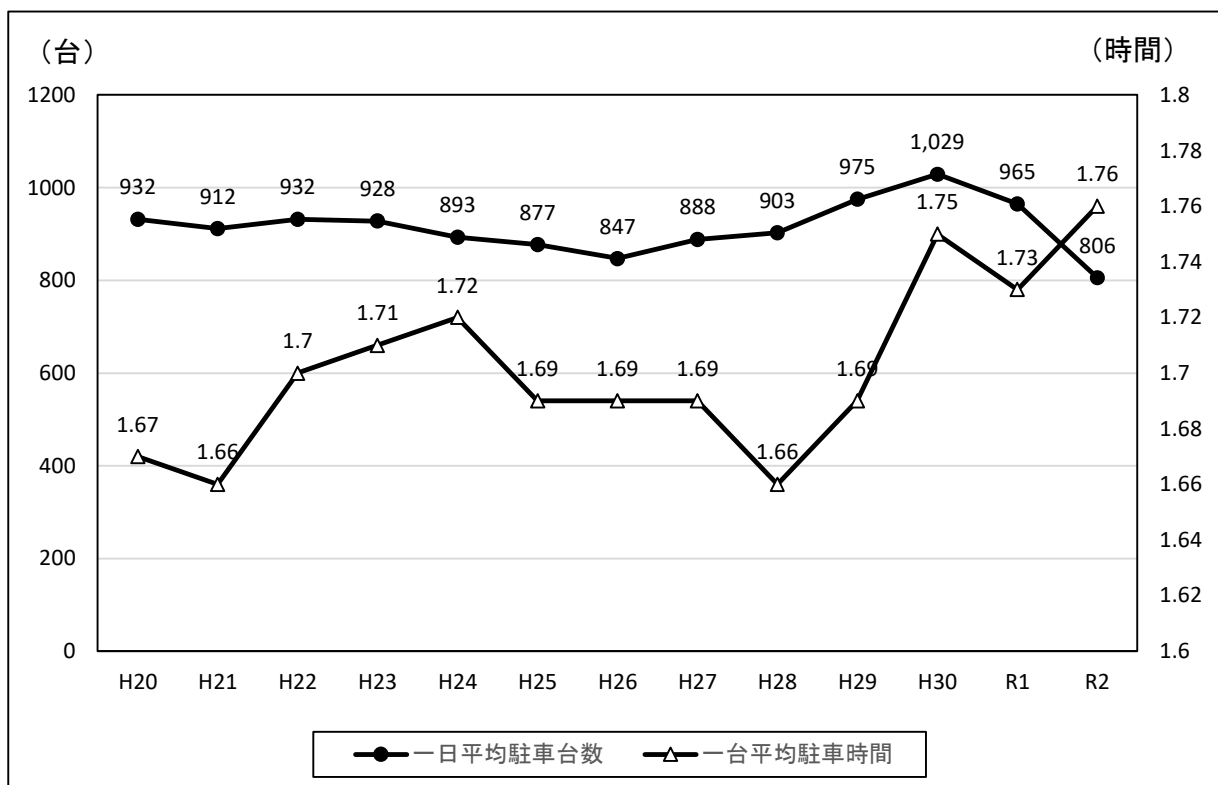
1日平均駐車台数は年間利用台数と同様の傾向となるが、一方で1台あたりの平均駐車時間は令和2年で1.76時間と最も長くなっている。

また、30分以上1時間未満の利用が最も多く、8,520台（32.8%）であった。2時間未満の利用で17,855台、全体の68.7%を占めている。



■中央公園地下駐車場の年間利用台数の推移

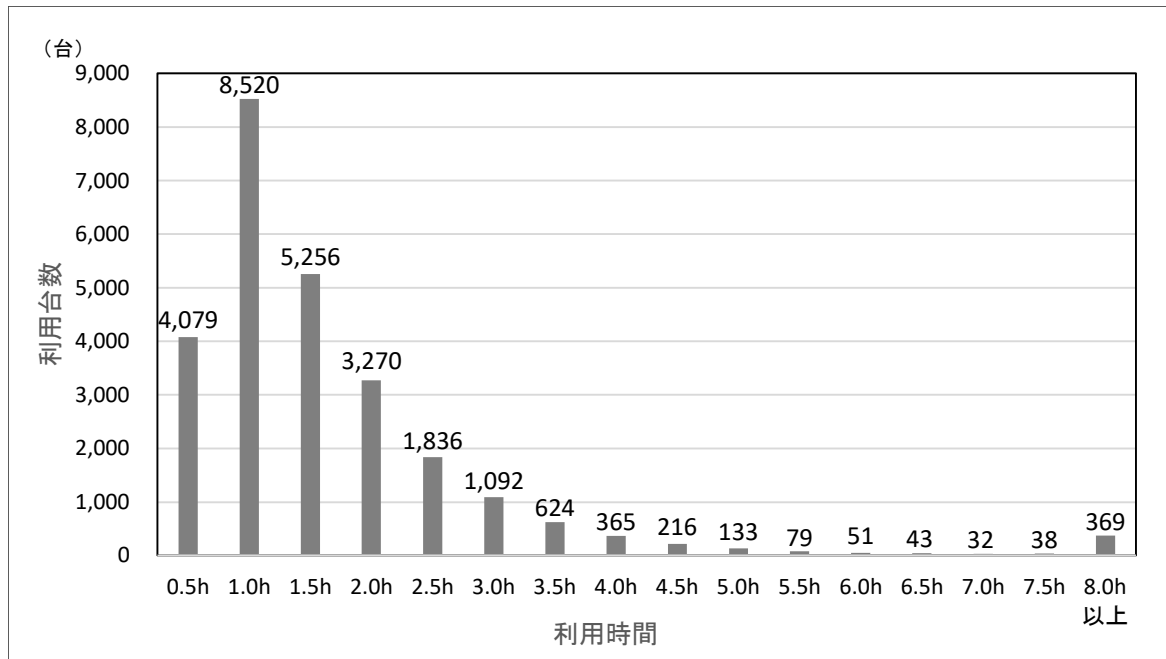
※データ：(株)高知市中心街再開発協議会



■中央公園地下駐車場の駐車台数・駐車時間

※データ：(株)高知市中心街再開発協議会

利用時間	0.5h	1.0h	1.5h	2.0h	2.5h	3.0h	3.5h	4.0h	4.5h	5.0h	5.5h	6.0h	6.5h	7.0h	7.5h	8.0h以上
台数	4,079	8,520	5,256	3,270	1,836	1,092	624	365	216	133	79	51	43	32	38	369
割合	15.7%	32.8%	20.2%	12.6%	7.1%	4.2%	2.4%	1.4%	0.8%	0.5%	0.3%	0.2%	0.2%	0.1%	0.1%	1.4%



■中央公園地下駐車場の時間別利用台数（令和3年1月～12月の平均値）

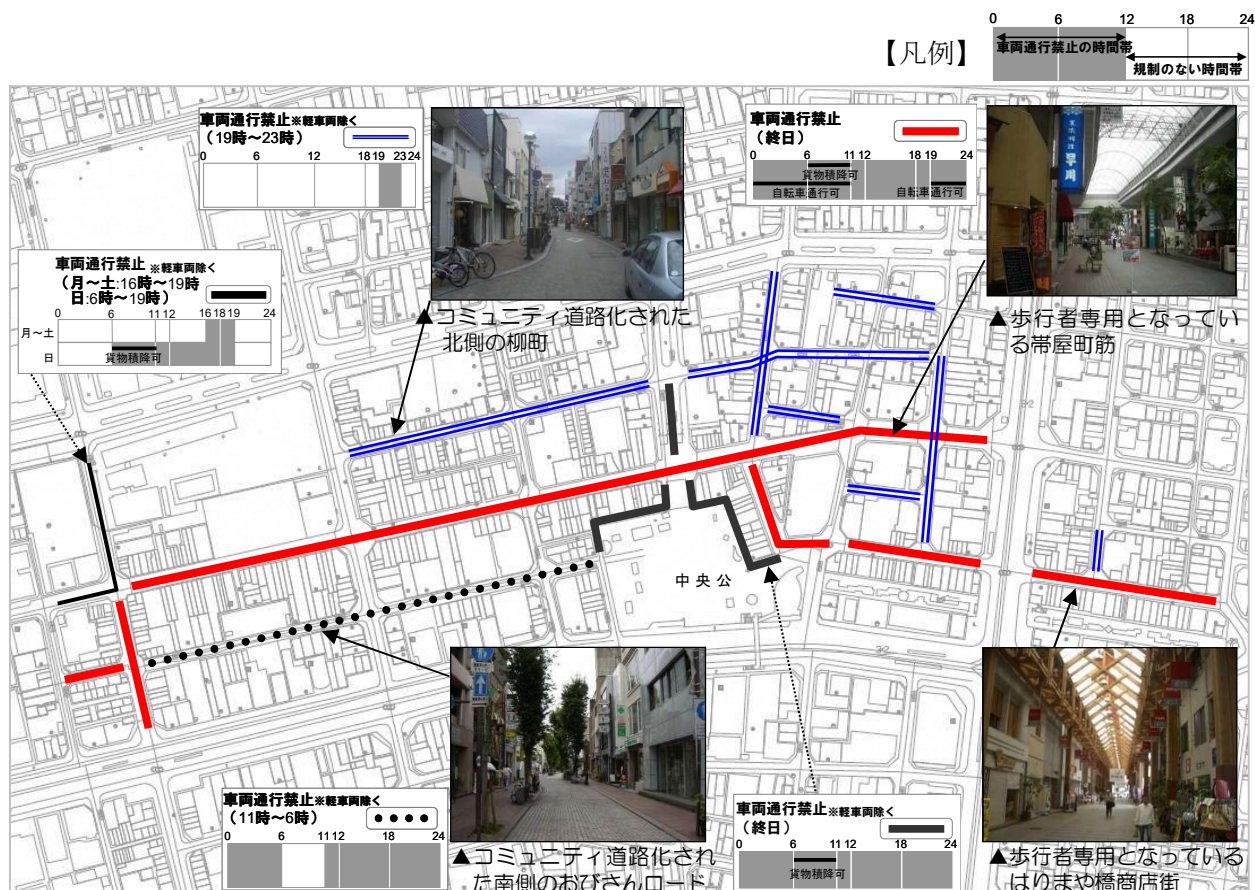
※データ：(株)高知市中心街再開発協議会

③歩行者・自転車

<歩行者・自転車の通行環境>

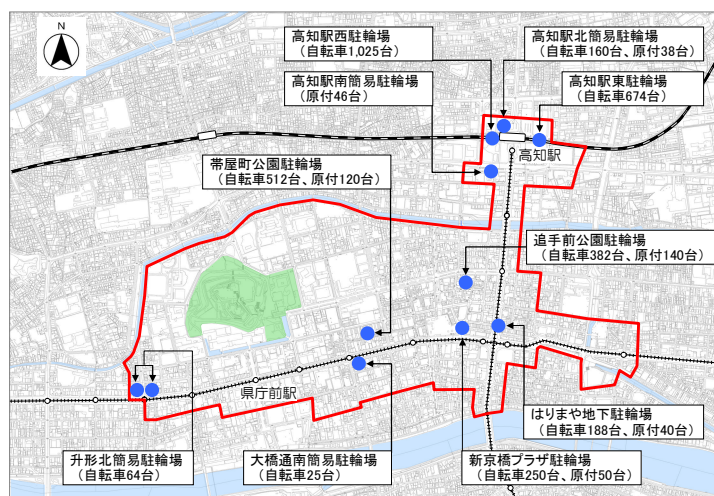
中心市街地の商店街は、アーケードの架かる帯屋町1丁目・2丁目商店街、壱番街商店街や京町・新京橋商店街、はりまや橋商店街、大橋通り商店街で、終日歩行者専用化（6時～11時は貨物運搬車両の通行が可）されている。

また、アーケード北側の柳町は19時～23時、南側のおびさんロードは0時～6時、11時～24時の間を車両進入禁止とし、時間限定で歩行者専用化されている。なお、両通りともコミュニティ道路化されており、安心して歩くことが可能となっている。



■中心部の交通規制

駐輪場は中心市街地に10カ所あるが、放置自転車等も多く、利用促進などの取組が必要な状況にある。



■駐輪場の位置

＜歩行者通行量＞

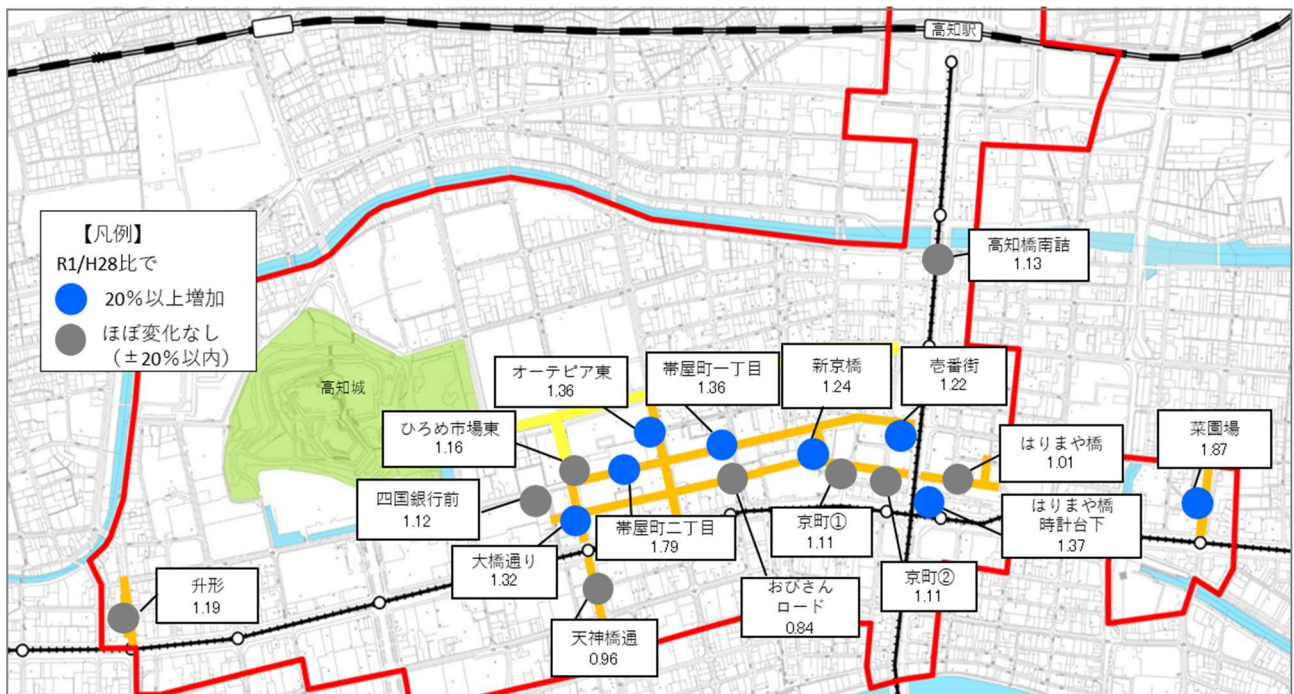
中心市街地の主要な地点（17 地点）における歩行者通行量について、基準値年の平成 28 年と令和 1 年を比較すると、17 地点中 8 地点が 20%以上の増加となっており、特に帯屋町二丁目（1.79）、菜園場（1.87）が大幅に増加している。

その他 9 地点についてはほぼ変化なし（20%以内の増減）であり、中心商店街の東西で見ても増減傾向の偏りは見られなかった。

■歩行者通行量（人）

	大橋通り	帯屋町二丁目	帯屋町一丁目	おびさどん	巷番街	新京橋	（野村證券前） 京町①	（片桐ビル前） 京町②	はりまや橋	時計台 はりまや橋	菜園場	升形	大神橋通	帯屋町支店前行	ひろめ市場東	オーテピア東	高知橋南詰
H28	8,498	17,270	18,717	5,352	7,854	5,700	5,940	6,561	5,460	3,156	462	873	2,568	5,459	9,739	4,785	3,396
R1	11,226	30,945	25,473	4,491	9,600	7,041	6,615	7,278	5,541	4,308	864	1,041	2,475	6,111	11,322	6,491	3,850
R1/H28	1.32	1.79	1.36	0.84	1.22	1.24	1.11	1.11	1.01	1.37	1.87	1.19	0.96	1.12	1.16	1.36	1.13

※データ：高知県商店街振興組合連合会、高知市



■歩行者通行量の増減比較（R1/H28）

(6) 地価の状況

平成24年から令和3年にかけて、中心市街地の地価は全体的に下落傾向であり、平成24年～令和3年における最高値と令和3年の平均変化率は85.8%となっているが、直近5年（平成29年～令和3年）での平均変化率は98.6%と下落幅が縮小しており、平成30年から令和2年までの帯屋町1丁目（⑩高知5-12）、令和2年の本町1丁目（⑧高知5-1）など、一部の地点では地価が上昇している。

■中心市街地と周辺の地価

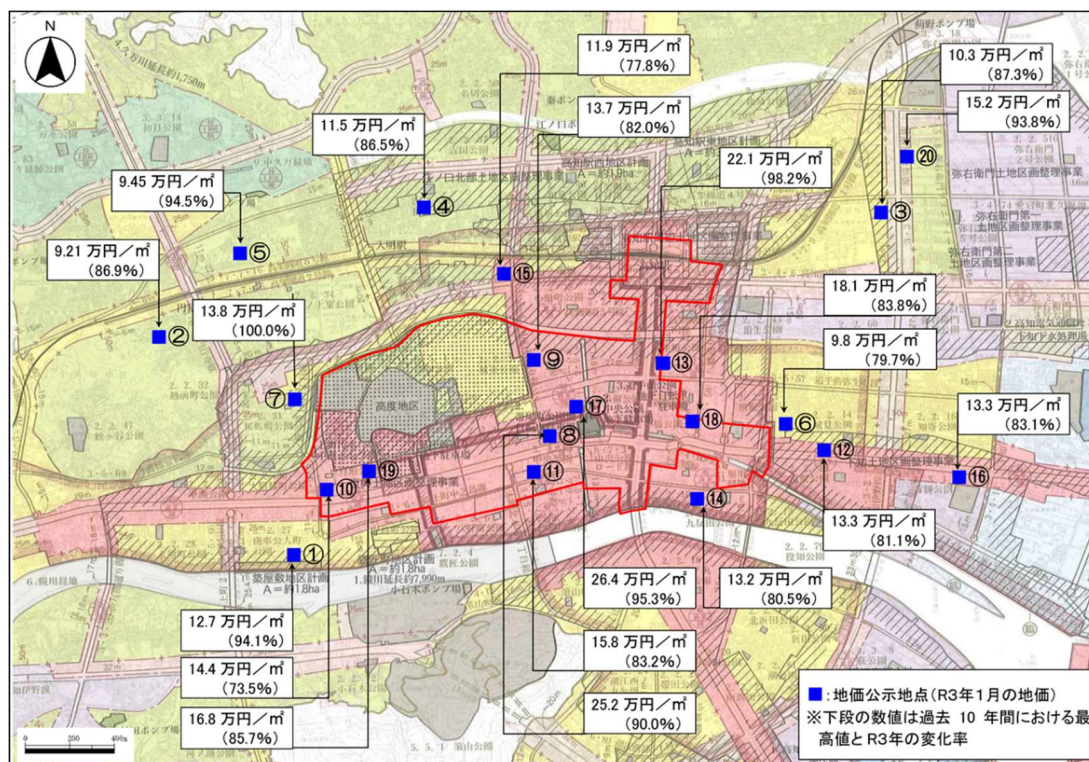
地価公示（調査日各年1月1日）

(円/㎡)

位置	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3/最高値比	R3/H29比
■① 高知-1 高知市上町1丁目296番1	142,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知市上町1丁目247番8	-	135,000	131,000	129,000	127,000	126,000	125,000	126,000	127,000	127,000	94.1%	100.8%
■② 高知-5 高知市新屋敷2丁目148番2	106,000	100,000	98,000	96,000	94,500	93,600	93,000	92,800	92,600	92,100	86.9%	98.4%
■③ 高知-17 高知市杉井流字杉井流31番22外	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知市杉井流408番1外	118,000	110,000	107,000	105,000	104,000	103,000	102,000	102,000	103,000	103,000	87.3%	100.0%
■④ 高知-21 高知市相模町1004番2	133,000	125,000	121,000	119,000	118,000	117,000	116,000	116,000	116,000	115,000	86.5%	98.3%
■⑤ 高知-29 高知市宝町128番16	120,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知市八反町2丁目38番3	-	100,000	98,500	97,000	96,000	95,200	95,000	95,000	95,000	94,500	94.5%	99.3%
■⑥ 高知-36 高知市桜井2丁目42番外	123,000	115,000	110,000	107,000	105,000	103,000	101,000	100,000	99,100	98,000	79.7%	95.1%
■⑦ 高知-36 高知市桜馬場28番	157,000	207,000	198,000	180,000	-	-	-	-	-	-	-	-
高知市桜馬場18番	-	-	-	-	136,000	136,000	136,000	137,000	138,000	138,000	100.0%	101.5%
■⑧ 高知5-1 高知市本町1丁目29番外	280,000	269,000	261,000	257,000	255,000	253,000	252,000	252,000	253,000	252,000	90.0%	99.6%
■⑨ 高知5-2 高知市廿代町318番	167,000	155,000	147,000	142,000	141,000	140,000	139,000	139,000	139,000	137,000	82.0%	97.9%
■⑩ 高知5-3 高知市弁形52番	196,000	180,000	170,000	162,000	156,000	150,000	148,000	147,000	146,000	144,000	73.5%	96.0%
■⑪ 高知5-4 高知市本町2丁目104番	190,000	179,000	172,000	166,000	163,000	160,000	158,000	158,000	158,000	158,000	83.2%	98.8%
■⑫ 高知5-5 高知県高知市中宝永町716番	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県高知市中宝永町716番外	164,000	152,000	146,000	142,000	140,000	138,000	137,000	136,000	135,000	133,000	81.1%	96.4%
■⑬ 高知5-6 高知市はりまや町3丁目76番	240,000	220,000	213,000	207,000	202,000	200,000	198,000	-	-	-	-	-
高知市はりまや町1丁目108番	-	-	-	-	-	-	-	225,000	225,000	221,000	98.2%	-
■⑭ 高知5-7 高知市南はりまや町2丁目131番	164,000	154,000	146,000	142,000	140,000	138,000	136,000	135,000	134,000	132,000	80.5%	95.7%
■⑮ 高知5-8 高知市愛宕町1丁目206番	153,000	139,000	131,000	127,000	125,000	123,000	122,000	121,000	120,000	119,000	77.8%	96.7%
■⑯ 高知5-11 高知市伊勢崎町718番	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知市知寄町2丁目301番	160,000	150,000	145,000	142,000	140,000	138,000	137,000	136,000	135,000	133,000	83.1%	96.4%
■⑰ 高知5-12 高知市帯屋町1丁目170番外	277,000	264,000	258,000	256,000	255,000	255,000	256,000	261,000	269,000	264,000	95.3%	103.5%
■⑱ 高知5-13 高知市はりまや町2丁目178番	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知市はりまや町1丁目333番1	216,000	200,000	192,000	188,000	185,000	183,000	182,000	182,000	182,000	181,000	83.8%	98.9%
■⑲ 高知5-14 高知市本町5丁目52番	196,000	186,000	180,000	175,000	173,000	171,000	169,000	169,000	169,000	168,000	85.7%	98.2%
■⑳ 高知5-15 高知市鷹匠町1丁目50番	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知市高ソネ2202番外	162,000	154,000	152,000	151,000	151,000	151,000	151,000	151,000	152,000	152,000	93.8%	100.7%

資料：国土交通省

■：地点ごとの平成24年から令和3年までの期間の最高値



■中心市街地と周辺の地価

[3]地域住民のニーズ等の把握・分析

本市では、令和3年1月に総合的かつ計画的な行政運営の基本方針を示した「2011 高知市総合計画後期基本計画」を策定し、南海トラフ地震への総合的な対策、産業振興や移住・定住促進をはじめとする地方創生への取組の強化、地域共生社会の実現などに向けて取組を進めている。

このような市政のさまざまな分野に関する市民のニーズを把握し、「2011 高知市総合計画後期基本計画」の着実な推進をはじめ、今後の市政運営に当たっての資料として活用する目的で、「令和3年度高知市民意識調査」を実施した。

さまざまな分野について行った調査のうち、「中心市街地に関することについて」の分析を行う。

■令和3年度市民意識調査概要

実施方法	郵送配布、郵送回収調査法
調査地域	高知市全域
対象者	令和3年6月1日現在の住民基本台帳登録者の内、20歳以上の市民268,420人の中から3,000人を無作為抽出
実施期間	令和3年7月7日(水)～7月28日(水)
調査・分析実施機関	ジェイエムシー株式会社

〔地区区分〕



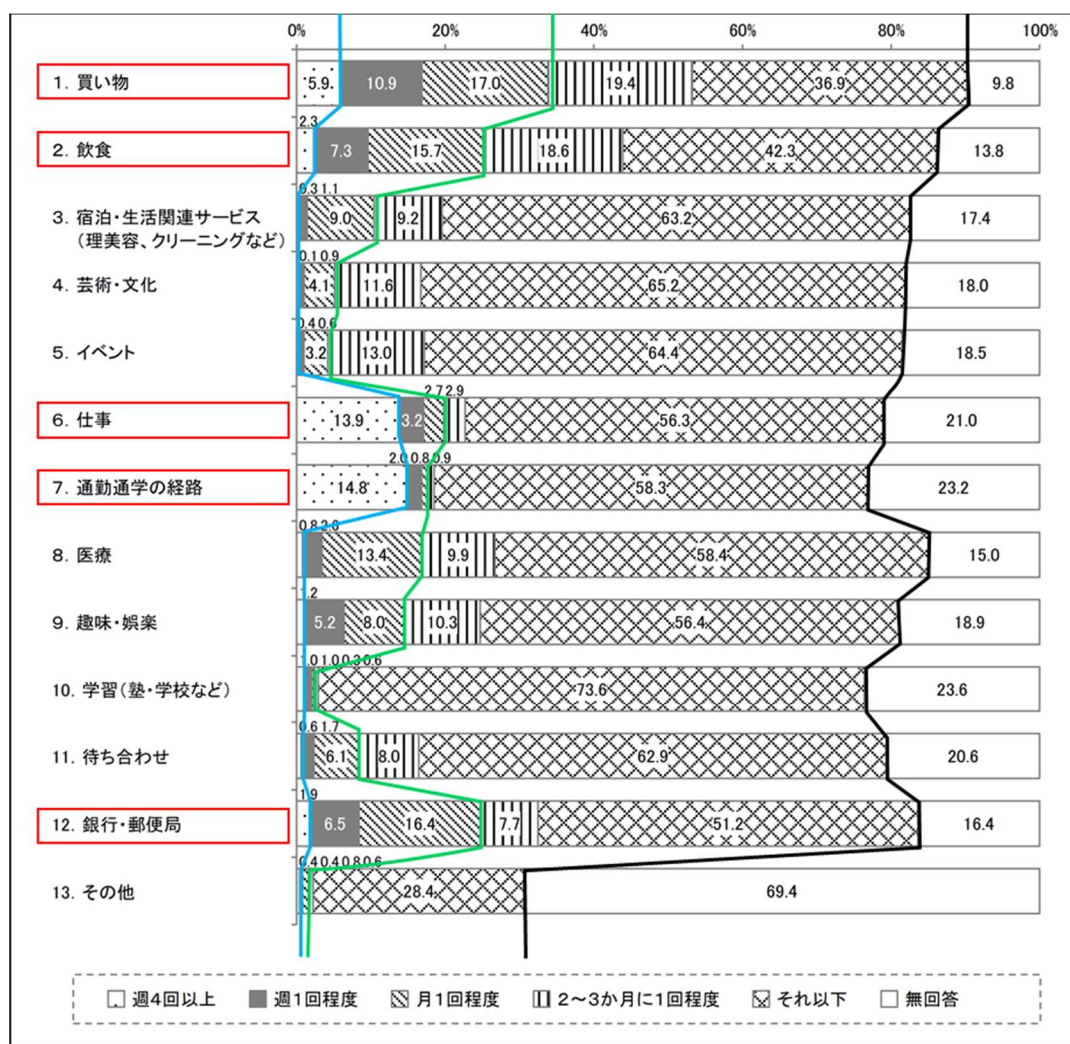
北部地域	旭街・一宮・秦・初月
南部地域	三山・長浜・御豊瀬・浦戸
東部地域	五台山・高須・布師田・大津・介良
西部地域	朝倉・鴨田
中部地域	上街・高知街・南街・北街・下知・江ノ口・小高坂・潮江
鏡地域	鏡
土佐山地域	土佐山
春野地域	春野

1. 中心市街地の目的別利用頻度

①目的別利用頻度

全ての目的において、中心市街地への来訪頻度は「2～3 か月に1 回程度以下」が最も多くなっている。中心市街地の利用頻度が多い“ヘビー層（週4 回以上）”の利用目的は、「通勤通学の経路」（14.8%）、「仕事」（13.9%）、「買い物」（5.9%）の順となっている。

ヘビー層に次いで利用頻度が多い“ミドル層”の利用目的は、「買い物」（27.9%）、「飲食」（23.0%）、「銀行・郵便局」（22.9%）の順となっている。

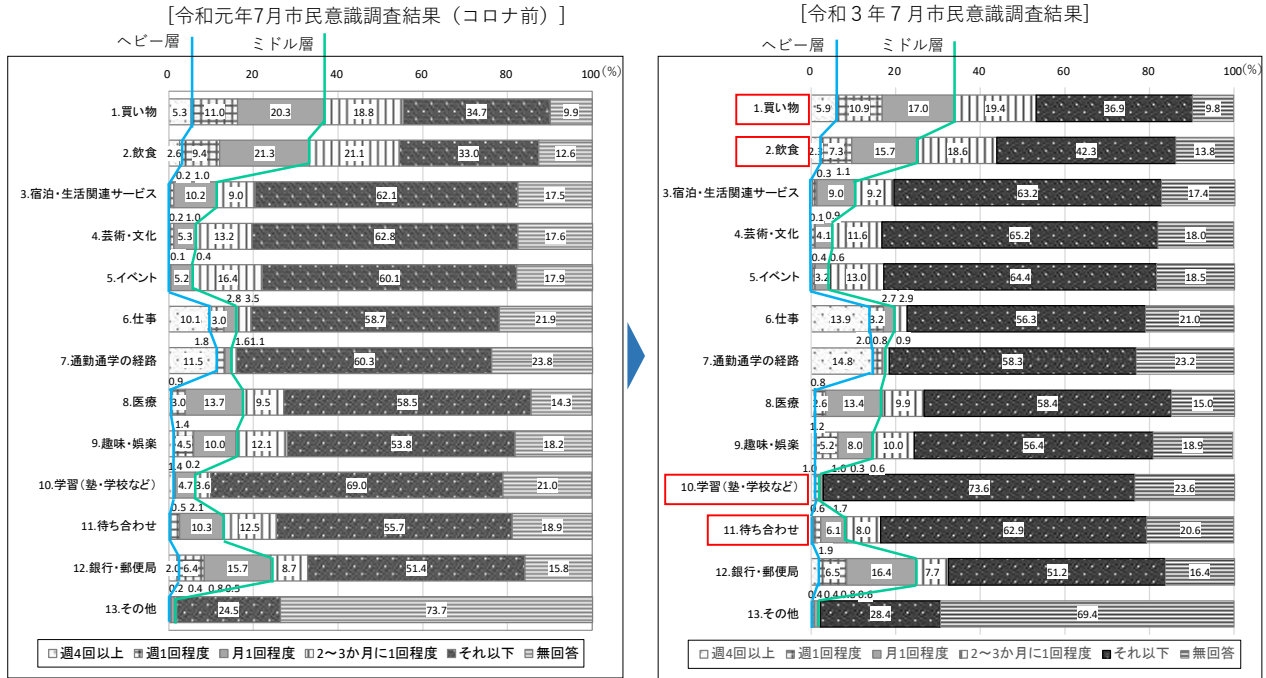


■ 中心市街地を利用する目的と頻度

※市民意識調査では、「週4 回以上」をヘビー層、「週1 回程度」と「月1 回程度」を合わせてミドル層、「2～3 か月に1 回程度」と「それ以下」をライト層と定義している。

②目的別利用頻度のコロナ前比較

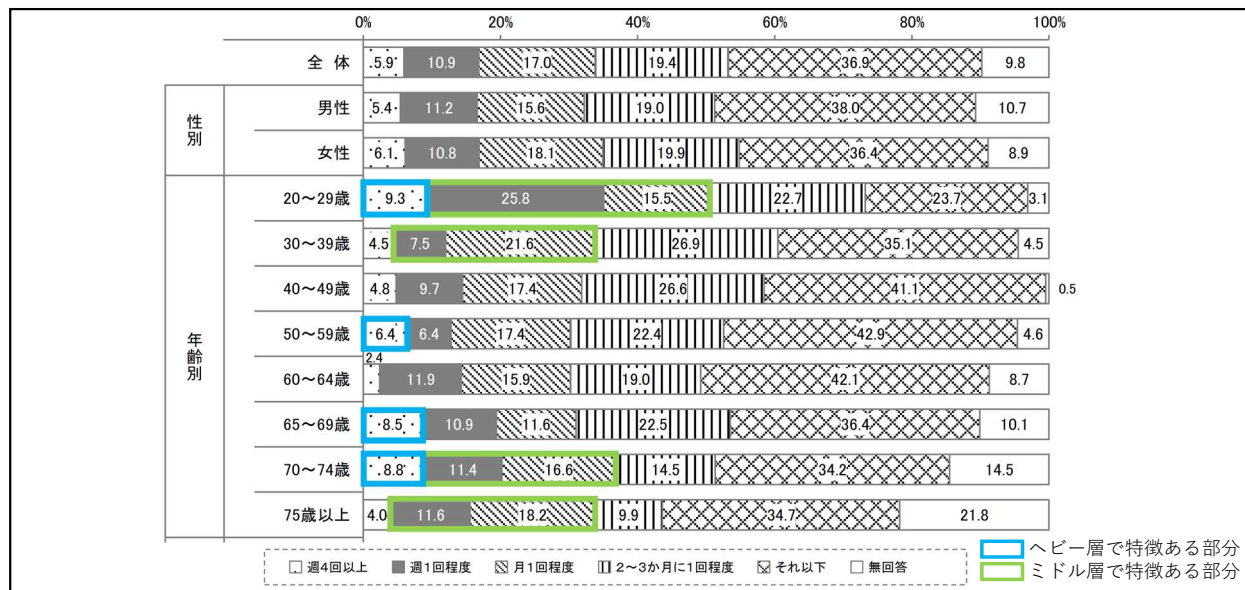
コロナ前と比較して、“ヘビー層”の利用頻度の減少割合にはあまり変化が見られなかった（学習 $-0.4p$ / 飲食 $-0.3p$ / 趣味・娯楽 $-0.2p$ / 芸術・文化 $-0.1p$ / 医療 $-0.1p$ / 銀行・郵便局 $-0.1p$ ）。一方、“ミドル層”の利用頻度については、「買い物（ $-3.4p$ ）」、「飲食（ $-7.7p$ ）」、「学習（ $-3.6p$ ）」、「待ち合わせ（ $-4.6p$ ）」などが減少しており、コロナによる外出控えが影響していると推察される。



③目的別利用頻度（年齢別）

＜買物＞

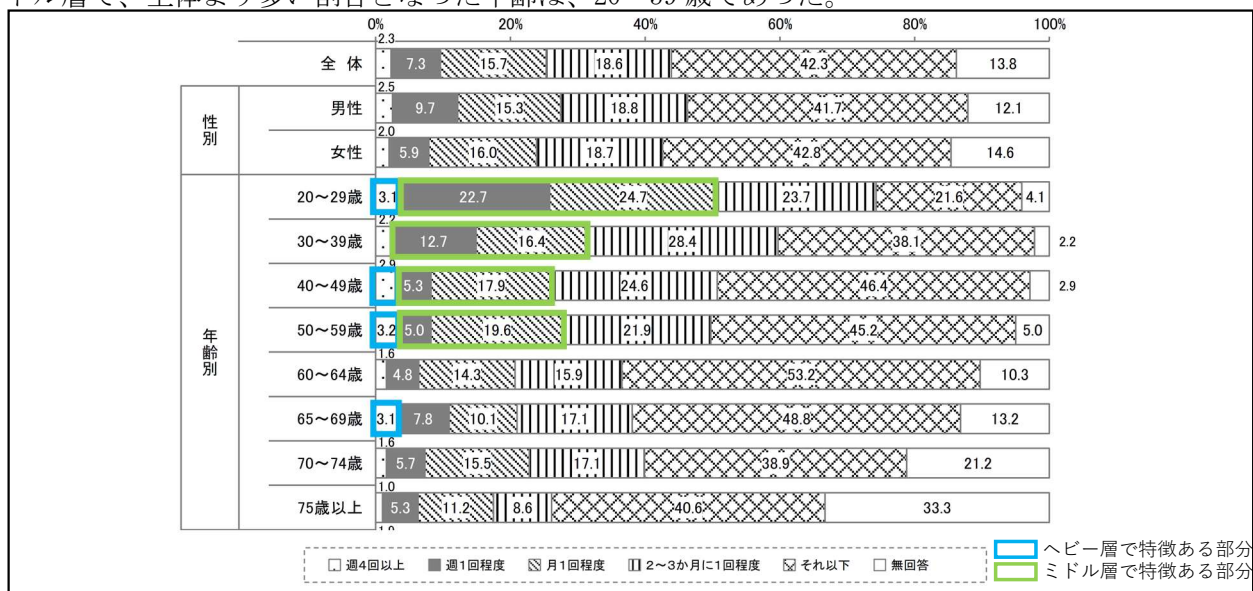
ヘビー層で、全体より多い割合となった年齢は、20～29歳、50～59歳、65歳～74歳であった。
ミドル層で、全体より多い割合となった年齢は20～39歳、70歳以上であった。



■中心市街地の「買物」での利用頻度（全体、年齢別）

＜飲食＞

ヘビー層で、全体より多い割合となった年齢は、20～29歳、40～59歳、65～69歳であった。
ミドル層で、全体より多い割合となった年齢は、20～59歳であった。

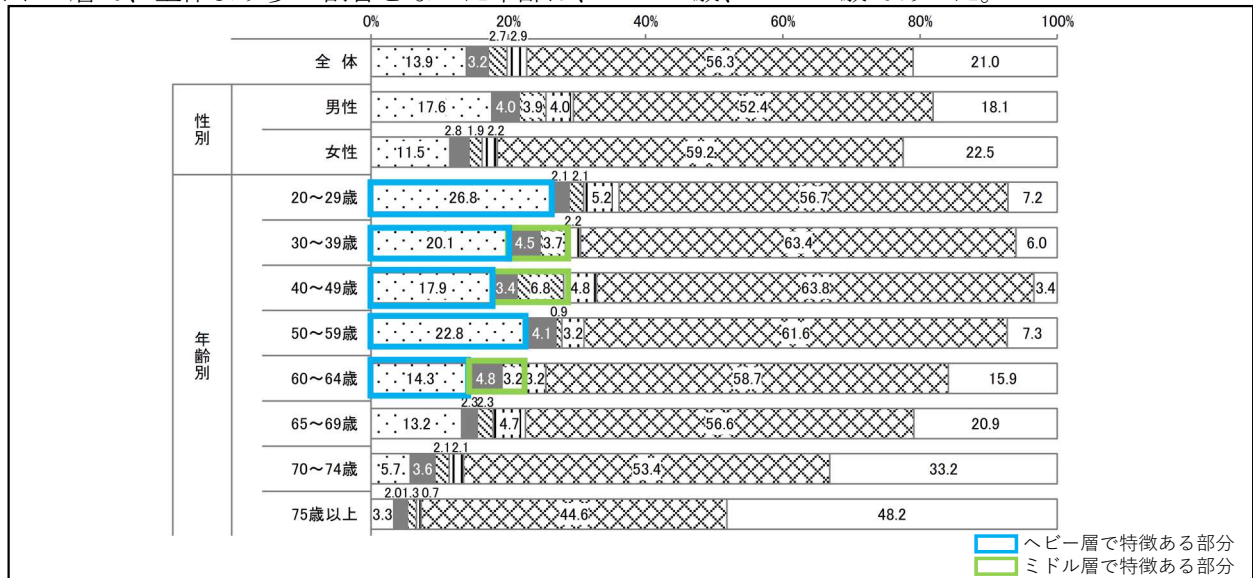


■中心市街地の「飲食」での利用頻度（全体、年齢別）

＜仕事＞

ヘビー層で、全体より多い割合となった年齢は、20～64歳であった。

ミドル層で、全体より多い割合となった年齢は、30～49歳、60～64歳であった。

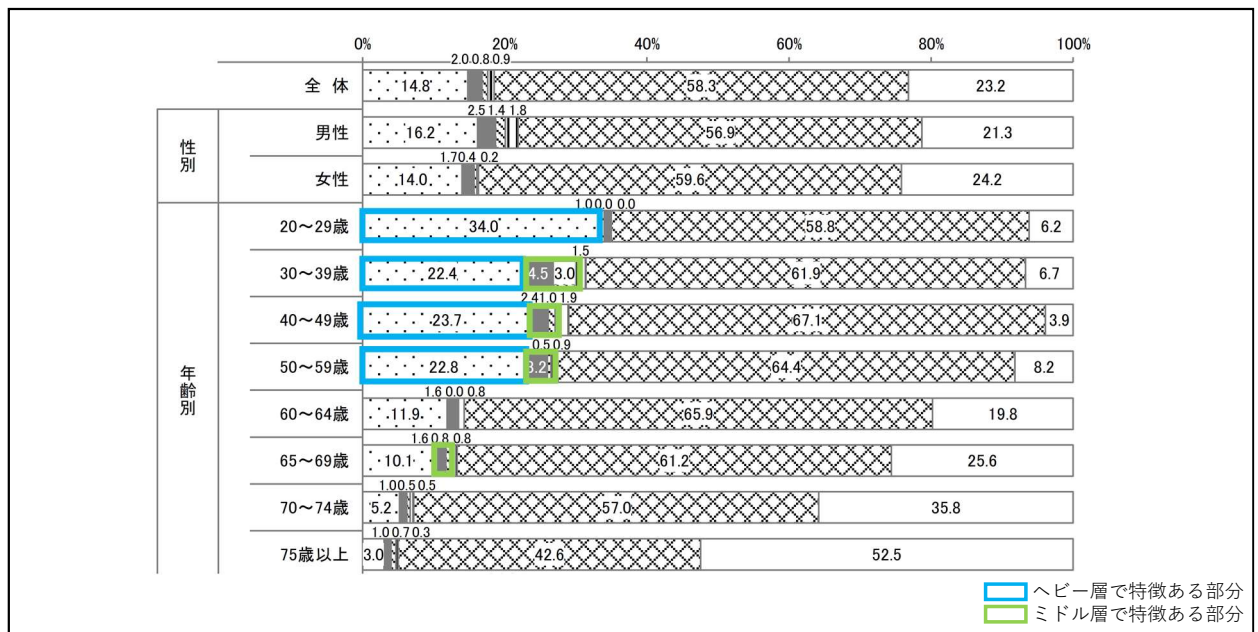


■中心市街地の「仕事」での利用頻度（全体、年齢別）

＜通勤通学＞

ヘビー層で、全体より多い割合となった年齢は、20～59歳であった。

ミドル層、全体より多い割合となった年齢は、30～59歳、65～69歳であった。



■中心市街地の「通勤通学」での利用頻度（全体、年齢別）

2. 中心市街地における重要な施設や機能

全体では、「商業」(39.9 %) が最も高く、次いで「イベント」(22.1 %)、「芸術・文化」(21.0 %) となっている。

年齢別にて、「商業」はすべての年齢で重要と回答、「イベント」は、64歳以下で重要であると回答、「芸術・文化」は、50歳以上で重要であると回答されている。39歳以下では、「観光」、30歳～49歳では、「子供の遊び場」が重要であると回答されている。65歳～74歳では、「公園・広場」が重要であると回答されている。

■中心市街地に重要な施設や機能について（全体、年齢別）

		調査数（人）	商業	教育・学習	産学交流	芸術・文化	公共サービス	住宅	働く場	子育て支援	子どもの遊び場	医療・福祉	交通	情報発信	観光	イベント	景観	環境	公園・広場	その他	無回答
	全 体	1,417	39.9	6.2	3.4	21.0	15.8	1.2	16.9	6.8	15.2	10.0	13.3	9.1	17.6	22.1	7.6	4.8	15.7	4.0	9.1
年 齢 別	20～29歳	97	44.3	5.2	2.1	10.3	19.6	3.1	20.6	8.2	17.5	6.2	16.5	8.2	28.9	28.9	8.2	8.2	14.4	1.0	7.2
	30～39歳	134	41.8	6.0	2.2	17.9	12.7	－	15.7	10.4	33.6	6.0	12.7	8.2	37.3	27.6	9.7	2.2	12.7	4.5	2.2
	40～49歳	207	48.8	4.8	2.9	19.3	12.6	1.9	18.8	8.7	25.1	7.7	8.7	8.7	24.2	33.3	9.2	5.3	10.6	4.8	2.4
	50～59歳	219	49.8	7.8	2.7	25.1	16.9	0.5	20.5	5.9	12.8	8.2	15.1	13.7	13.7	28.3	6.4	5.0	18.7	5.5	3.7
	60～64歳	126	37.3	2.4	4.8	23.0	16.7	1.6	15.1	7.9	12.7	8.7	12.7	11.1	18.3	21.4	11.9	5.6	15.9	1.6	7.9
	65～69歳	129	41.1	8.5	3.9	26.4	19.4	0.8	15.5	4.7	14.0	9.3	11.6	9.3	10.9	19.4	5.4	4.7	20.2	1.6	11.6
	70～74歳	193	35.2	6.7	4.1	24.9	19.7	－	14.5	4.7	10.9	14.0	11.9	8.8	9.3	15.0	7.8	3.1	20.2	6.7	10.9
	75歳以上	303	28.7	6.9	4.0	18.5	13.2	2.0	15.2	5.9	6.3	13.5	16.2	5.9	11.9	11.9	5.0	5.3	13.2	3.6	19.1

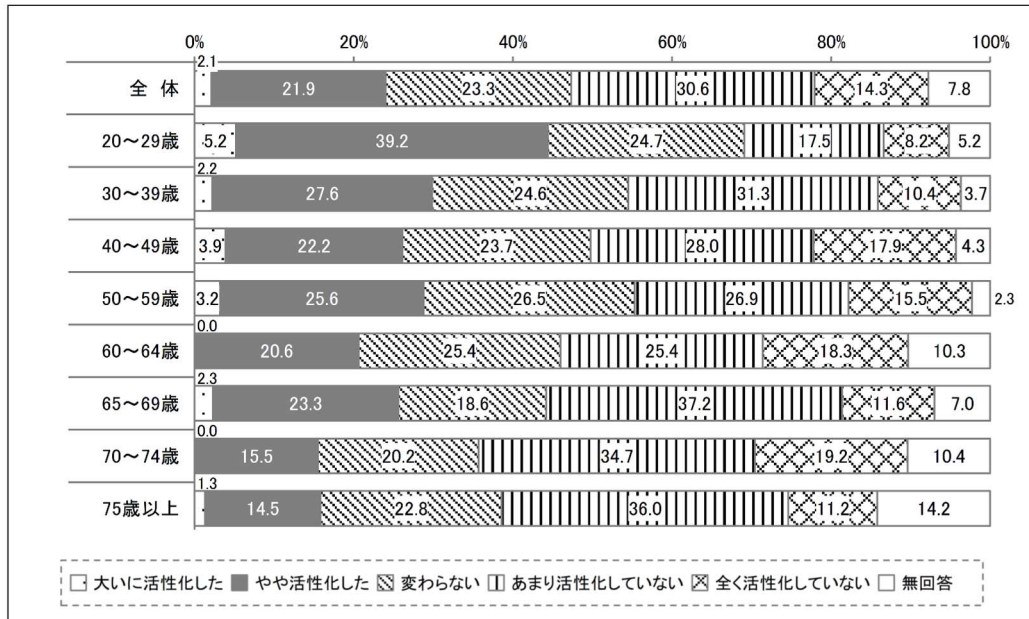
3. 5年前（平成28年）と比較して中心市街地は活性化したか

全体では、「あまり活性化していない」（30.6％）が最も高く、「活性化していない」（「全く活性化していない」または「あまり活性化していない」と答えた方）は、44.9％となっている。

一方、「活性化した」（「大いに活性化した」または「やや活性化した」と答えた方）は24.0％であり、「活性化していない」と感じている方のほうが20.9ポイント高い。

年齢が低い層ほど「活性化した」の割合が高くなる傾向がみられ、20～29歳では「活性化した」（44.4％）が「活性化していない」（25.7％）を上回っている。

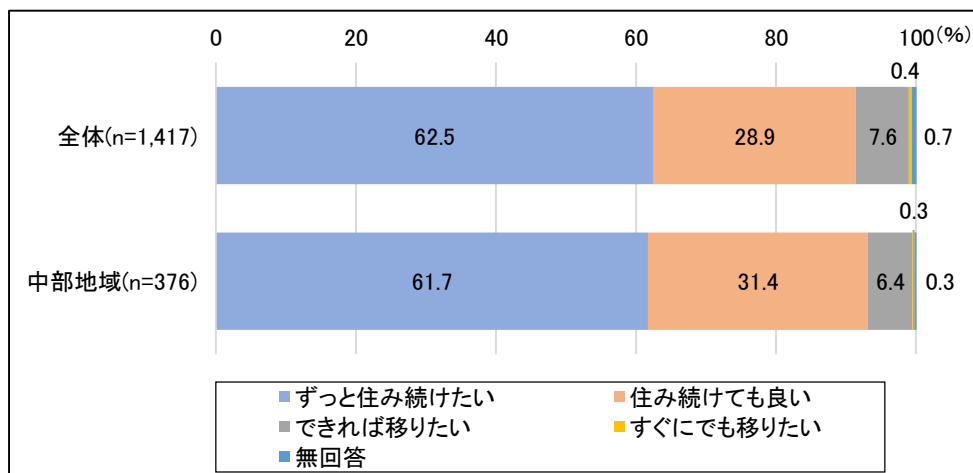
30歳以上の年齢層ではいずれも「活性化していない」が「活性化した」を上回っており、特に70～74歳では「活性化していない」（53.9％）が5割以上を占めている。



■ 中心市街地の活性化の有無について

4. 定住意向

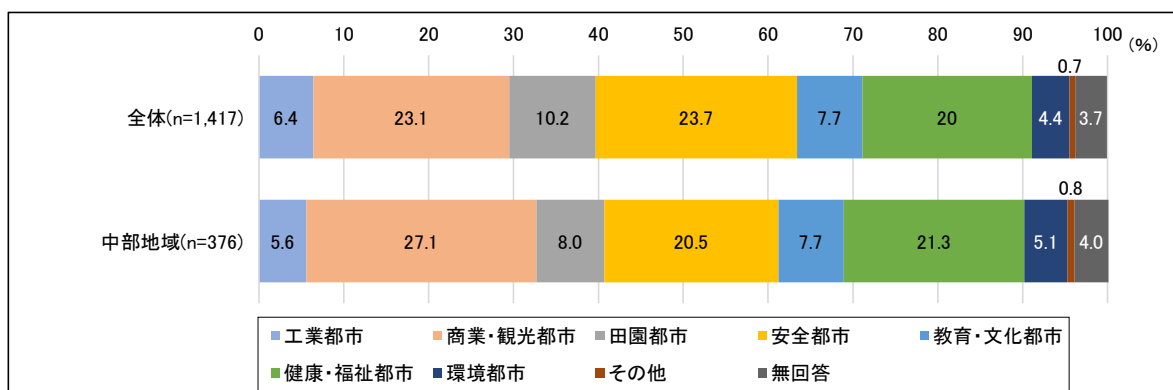
「ずっと住み続けたい」と「住み続けてもいい」が93.1%と9割以上を示し、中部地域も同様の傾向となっている。



■定住について

5. めざすべき都市像

市全域では、「安全都市」が23.7%と最も多く、次いで、「商業・観光都市」(23.1%)、「健康・福祉都市」(20.0%)。中部地域では、「商業・観光都市」が27.1%と最も多く、「健康・福祉都市」(21.3%)、「安全都市」(20.5%)であった。



■めざすべき都市像

[4] 前計画の実施状況と取組の評価

(1) 前計画の概要

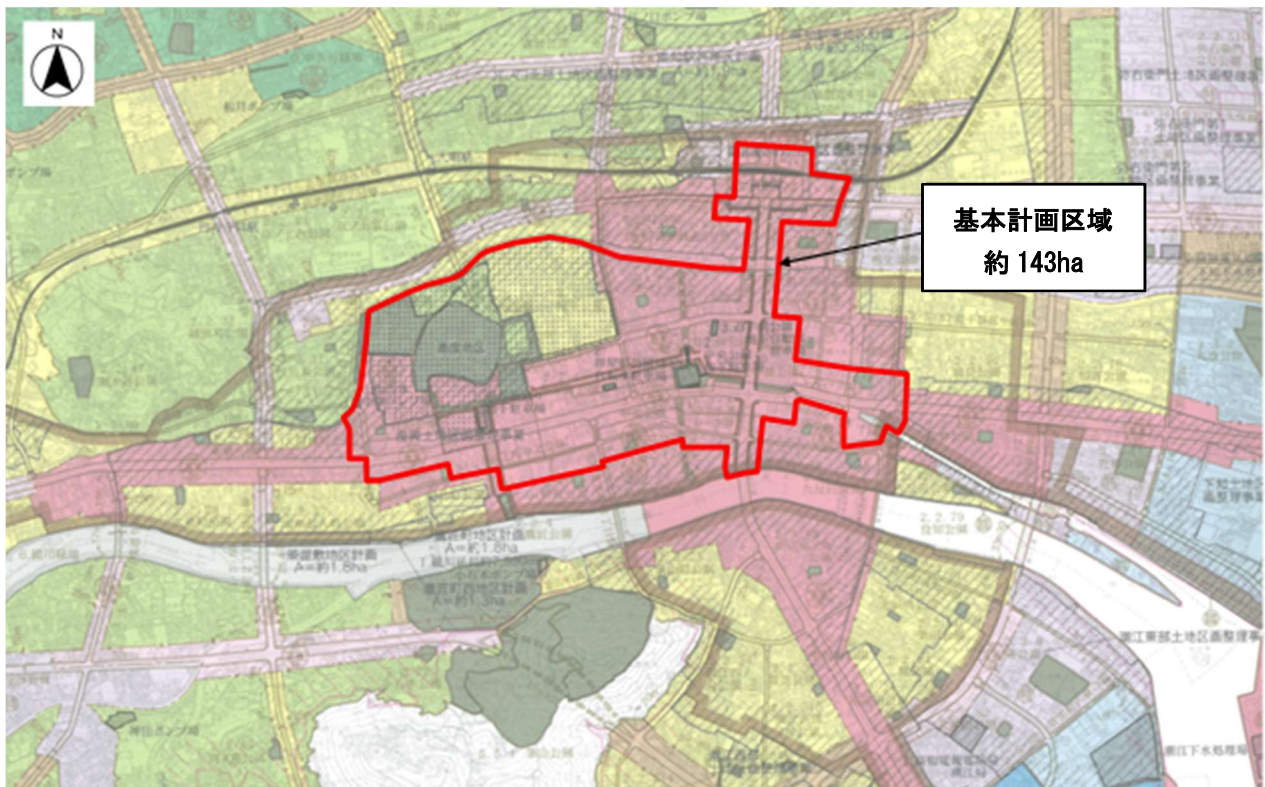
①計画期間

平成30年4月～令和5年3月

②計画区域及び面積

中心市街地の区域は、より効果的な整備を行い、早期に活性化効果を発現させることが求められることから、以下の4点に留意して設定し、143haとした。

- 1) 交通結節点であり、日常的に多くの人々が集散するとともに、多くの観光客を迎えるおもてなしの場、本市の玄関口である「JR 高知駅」を含む。
- 2) 賑わいの核である「中心商店街」と300年以上の歴史を誇る、日本一の路上マーケット「日曜市」のエリアを含む。
- 3) 「県庁・市役所等の行政機関の集積地」、高知県立大学等の教育機関、オーテピア、高知城歴史博物館、高知市文化プラザかるぽーと、県民文化ホール等、主要な都市機能が集積するエリアを含む。
- 4) 商業地域（用途地域）で容積率が600%または500%の区域。



■計画区域図（対象範囲：赤線内）

③現状から見える中心市街地の特性・考察

平成30年以降4年間で11棟482戸整備されるなどマンション建設が進み、人口・世帯数ともに増加しており、令和3年の65歳以上人口化率は34.9%と近年は下降傾向であり、また、15歳未満人口比率は8.8%で上昇傾向である。

また、集客できる施設が多く集積し、また、行政施設、教育施設をはじめ多くの公共施設等が集積され、多様な世代の来訪が見込める。

さらに、市全体で300万人以上、中心市街地の拠点施設で168万人（ひろめ市場除く）の多くの入込客を獲得できる魅力を持つ。多様な人を惹きつける施設が集積しており、集客力が高い中心市街地である。

中心市街地の来訪頻度や平均駐車時間が短時間である現状から、強い集客力を生かして、中心市街地の各地に「立ち寄りたい」「滞在したい」と思うきっかけづくり、仕組みづくりが重要である。

中心市街地の人口が増加している一方で、営業店舗数は減少傾向である。コロナ前と比較して、外出控えにより買い物、飲食等の来街頻度が減少しており、令和3年7月の市民意識調査結果では、5年前（平成28年）と比較して中心市街地が「活性化していない」と答えた人は44.9%と約半数いる状況である。

中心市街地を日常的に利用する層が居住者や通勤・通学者であることを踏まえると、快適性や利便性など、より「質を高める」ことが重要である。

(2) 取組の進捗状況

登録事業 60 事業のうち、事業完了が 6 事業、実施中が 52 事業、未着手が 2 事業となっており、事業完了と実施中を合わせると進捗率は約 97%となっている。

分類	全体	完了	実施中	未着手
市街地の整備改善のための事業	16	1	13	2
都市福祉施設を整備する事業	5	1	3	
居住環境の向上のための事業	8	4	2	
商業の活性化のための事業	32		30	
公共交通の利便増進事業	4		4	
計	60 ※再掲あり	6	52	2

(3) 目標の達成状況

○目標指標

目標	評価指標	指標値	目標値
目標 1:「すべての世代が長く住み続けられるまち」の実現	中心市街地の 居住人口の割合	1.52% (平成 28 年度 末)	1.65% (令和 4 年度末)
目標 2:「多くの人々が回遊するまち」 の実現	歩行者通行量 (平日・休日合計)	119,447 人 (平成 28 年度)	123,278 人 (令和 4 年度)
目標 3:「また訪れたいと思うまち」 の実現	拠点施設入館者 数	1,159,555 人 (平成 23 年度)	1,748,000 人 (令和 4 年度)

(4) 事業の進捗状況

◎：事業完了
○：事業実施中
■：未着手

○道路・公園その他公共施設等、市街地の整備改善に寄与する事業

事業名		事業内容	実施主体	進捗状況	主な実績等
1	みどり豊かなまちづくり事業	中心市街地内の公共空間への花や緑の設置、NP0等による維持管理(花とみどりの街づくり事業、花ストリート事業)	市・花いっぱい会	○	- 花とみどりの街づくり事業(はりまや橋、高知城追手門前等の公共花壇への花植え、街路樹等の適宜剪定)実施 - 花ストリート事業(県庁前から菜園場などの幹線道路の花壇及びプランターへの花植え)実施
2	街なか公園環境整備事業	中心市街地にある都市公園の改修等環境整備	市	○	はりまや橋公園をはじめとする公園施設の改修を実施
3	街なか公園環境美化事業	中心市街地にある都市公園の環境美化清掃等	市	○	はりまや橋公園をはじめとする公園施設の美化活動等を実施
4	丸ノ内緑地整備事業	高知城に隣接する丸ノ内緑地について、自然環境を確保しながらイベントスペースとしても活用できるよう、再整備の検討及び実施を行う。	市	○	- R元年度 基本構想策定 - R2年度 実施設計完了 - R3年度 通路橋架替工事完了 - R4年度 公園整備工事完了予定
5	横堀公園整備事業	水辺景観を活かした、市民の憩いの場としての再整備の検討及び実施	市	○	R3年度 実施設計完了
6	オーテピア西敷地利活用事業	オーテピアに隣接する市有地の利活用。市民や観光客で賑わい、回遊できる機能を整備する。	市・民間	○	- R元年度 新図書館西敷地利活用事業基本方針の改定 - R3年度 サウンディング調査の実施 - R3年度 事業実施方針の策定 - R4年度 事業者公募開始
7	新庁舎建設事業	老朽化した市役所庁舎の建て替え。災害時の災害対応拠点・避難施設の機能や市民が気軽に利用できるスペースを整備する。	市	◎	- R元年11月竣工 - R2年2月全面供用開始
8	無電柱化推進事業	高知街2号線、高知街13号線及び高知街22号線において電線共同溝の整備による無電柱化を推進	市	■	未実施
9	景観形成推進事業	良好な景観形成を重点的に図る地区における、良好な景観形成に寄与する建築物の新築等に対する支援	市	○	前計画期間に申請実績なし
10	シンボルツリー植栽事業	中心市街地の主要交差点などへシンボルツリーを植栽し、都市景観の向上を図る。	市	■	シンボルツリーの樹種、植栽場所等について検討を行った。
11	高知城の環境整備事業	高知城歴史博物館から高知城天守閣を眺望する際に支障となりそうな高木を適宜剪定し、良好な空間を形成する。	県・市	○	樹木調査の結果に基づき、樹木の管理剪定を実施
12	駐輪場整備事業	安全・快適な歩行空間の確保や良好な街なみ景観形成のために、駐輪場の利便性改善整備を行う。	市	○	- 地下駐輪場利用促進啓発チラシの配布 - 放置規制区域看板のリニューアル - LED照明の導入

事業名		事業内容	実施主体	進捗状況	主な実績等
13	藤並公園整備事業	観光客等の憩いの場としての再整備の検討及び実施	市	○	- R元年度 基本構想策定 - R3年度 実施設計完了 - R3年度 公園整備計画策定
14	レンタサイクル事業	中心市街地内を快適に回遊できるレンタサイクルの導入	市	○	シェアサイクルの導入に向けた検討
15	追手筋空間の有効利用	空間的に余裕のある追手筋の有効利用を検討	市	○	追手筋空間の有効利用事業化にむけた検討
16	駐車場利便性向上事業	買い物額に応じた駐車料金割引サービスなど、中央公園地下駐車場の利便性を向上させるための事業	市・民間	○	- 現サービス（加盟店での3,000円以上のお買い物で1時間駐車無料スタンプ）を継続して実施 - R2年度 中央公園地下駐車場の無料開放を実施

○都市福利施設を整備する事業

事業名		事業内容	実施主体	進捗状況	主な実績等
17	地域子育て支援拠点事業	中心市街地にある子育て支援拠点施設（さくらんぼの森）の整備及び運営	市・民間	○	H30年度 子育て支援拠点施設「さくらんぼの森」開設
18	まちなか市民健康づくり事業	健康を増進するソフト事業やいきいき百歳体操の実施及び活動支援	市・民間	○	中心市街地エリアの会場で実施するいきいき百歳体操を支援
19	帯屋町一丁目地区複合施設整備事業	店舗や映画館と共同住宅の複合施設を整備する。	民間	◎	R3年5月竣工、共同住宅51戸が整備
20	永国寺キャンパス整備事業	永国寺キャンパスの整備と機能の拡充。H25年度から続く整備の第3期工事実施	県	◎	旧学生会館解体及び南敷地外構工事がH31年3月に完了し、永国寺キャンパス整備事業全工程完了となった。

○住宅の供給及び当該事業と一体的に実施する居住環境向上のための事業

事業名		事業内容	実施主体	進捗状況	主な実績等
21	環境美化事業	街なかで快適に過ごすための、エリア内の環境美化活動（県民一斉美化活動、初夏のまちを美しくする運動）	県・市・高知市民憲章推進協議会	○	- 県民一斉美化活動の実施 - 初夏のまちを美しくする運動の実施
22	クールチョイス事業	地域住民や各種団体等と連携し、省エネ・脱炭素型環境づくりのためのソフト事業を実施	市・民間	○	「よさこい×COOL CHOICE」事業としてフォトコンテスト、環境学習イベント等メディアツールを活用した広報などを実施
23	移住・定住促進事業	第二期移住・定住促進計画に基づく各種施策の実施	市	○	- ガイドツアーの実施 - 各種補助金対応（三世帯同居等Uターン支援、二段階移住支援、若者世代のUIターン等支援など）
24	「クレアホームズ高知駅前 ザ・レジデンス」整備事業	北本町二丁目地区における民間分譲マンションの整備	セントラル総合開発(株)	◎	H30年11月竣工
25	「ロイヤルガーデンはりまや町」整備事業	はりまや町一丁目地区における民間分譲マンションの整備	(株)和田コーポレーション	◎	H30年12月竣工
26	「クレアホームズ升形 ザ・レジデンス」整備事業	升形地区における民間分譲マンションの整備	セントラル総合開発(株)	◎	H31年2月竣工

○商業活性化等、経済活力の向上に寄与する事業

事業名		事業内容	実施主体	進捗状況	主な実績等
27	まんがイベント事業	まんがに関するイベントの開催や地元商店街と連携したイベント等の実施（まんが甲子園、全国漫画家大会議、まんさい等）	県・市・商店街	○	・「まんが甲子園」、「全国漫画家大会議 in まんが王国・土佐」、「まんさい」の開催
28	高知よさこい情報交流館運営事業	高知よさこい情報交流館の運営事業。よさこいをテーマとした展示やイベントなどを実施する。	市	○	・高知よさこい情報交流館の運営
29	京町チャレンジショップ事業	新規出店や業種転換を予定している経営者の育成事業	県・市・京町・新 京橋商店街振興組合	○	・チャレンジショップに入居する第9～13期のチャレンジャー(14者)を支援、内3者が中心市街地で開業
30	学生活動交流館事業	中心市街地で実習や自主活動を行う学生グループの活動拠点、芸術・文化グループによる展示や商店街活動の場を提供	市・学生	○	・学生グループ等が実施する作品展示、実習等の実施
31	学生と日曜市の連携事業	大学生による日曜市の出店者の出店サポートや、空き小間を活用した臨時出店	市・学生	○	・高知大学の学生グループによる休憩所兼観光案内所の運営及び出店者の出店をサポート ・農業大学校や県立大学等学生グループの出店をサポート
32	日曜市と商店街の回遊促進事業	日曜市と商店街の回遊性を向上するための、ソフト事業の実施	市・商店街・民間	○	・出店者組合との会合や街路市活性化推進委員会で具体的な方策の研究 ・商店街と日曜市をむすぶ場所に位置するオーテピアと、新たなマーケット創出などについて協議
33	日曜市空き小間活用事業	日曜市の空き小間を活用した休憩所の設置や日曜市を活性化させるための取組	市・民間	○	・帯屋町商店街で、日曜市への誘客チラシを配布 ・れんけいこうち日曜市出店事業の継続実施
34	よさこいおもてなし事業	まちなか・よさこい、よさこいアンコール等、よさこい祭りのオフシーズンにおけるよさこい演舞の披露等によるおもてなし事業	市・商店街・民間	○	・まちなか・よさこい実施 ・観光客対象のよさこい体験イベント実施 ・よさこいアンコール実施
35	「土佐っ歩」事業	中心市街地の街歩きコース「土佐っ歩」の充実や、観光ガイドサービスを充実させる事業	市・NPO法人土佐観光ボランティア協会	○	・「土佐っ歩」の実施 ・よさこい情報交流館やはりまや橋を巡る「よさこい満喫コース」を新設
36	商店街イベント事業	各商店街が特色を生かしたイベントを開催する。	市・商店街	○	・イベントを実施(高知大道芸フェス、土曜夜市、龍馬生誕祭、イルミネーションフェスタ等)
37	「食のイベント」事業	高知の食文化を生かした「土佐のおきゃく」、「土佐の豊穰祭」等のイベントの開催	市・土佐のおきゃく推進会議・土佐の豊穰祭推進会議	○	・「食のイベント」の実施（土佐の豊穰祭、土佐のおきゃく）
38	緑化推進事業	都市緑化の推進と商店街活性化を図るための「みどりの週間」、「春花まつり」等イベントの開催	市・(株)高知市中心街再開発協議会・高知市都市整備公社	○	・イベントの開催(こうち春花まつり、みどりの週間、緑化祭)

事業名		事業内容	実施主体	進捗状況	主な実績等
39	エスコーターズ事業	高知県立大学の学生グループ「エスコーターズ」による、商店街での案内・挨拶・清掃等の活動	高知TMO・学生・中心商店街	○	- 毎週日曜日に行う商店街での案内・挨拶・清掃活動の実施 - 季節に関連したイベントを中心市街地で実施
40	「高知まちゼミ」事業	商店街や個店のファンづくりを目指し、店主らが講師となって開くミニ講座の実施	高知TMO・中心商店街	○	「高知まちゼミ」の開催
41	空き店舗対策事業	中心市街地や商店街の空き店舗を活用して新規創業・事業拡大をする事業者に対し助成	県・市・高知商工会議所	○	高知県空き店舗対事業費補助金及び高知市空き店舗活用創業支援事業費補助金の対応
42	タウンモビリティ事業	高齢者や障害者、子ども連れなど誰もが街なかを安心して回遊するための、来街者支援活動の実施	県・市・NPO法人福祉住環境ネットワークこうち	○	- タウンモビリティ推進事業費補助金(県1/2 市1/2)による支援 「高知市お城下バリアフリーまっぷ」の改訂、点字版、音声版を作成
43	街なか空間有効活用事業	中心市街地に点在する未利用地や公共空間等においてイベント開催等の有効活用を図る。	市・商店街・民間	○	- H30年10月に高知市と(株)高知大丸において、未利用スペースを有効活用する「高知経済ナレッジネットワーク」を締結 - 高知大道芸フェス、カーニバル00in高知(R元年度)等、行政・商店街・民間事業者等が連携して各種イベントを開催
44	外国人観光客の受入おもてなし事業	中心市街地を訪れる外国人観光客を受け入れる態勢の充実	県・市・商店街・民間	○	- 外国人観光客の受入に関する相談体制の整備及び研修等の実施 - 外国客船寄港時におけるおもてなしの実施
45	観光案内所整備事業	観光客が多く立ち寄る中心商店街内に外国語対応可能な観光案内所を設置する。	市	○	H31年3月「こうち観光ナビ・ツーリストセンター」開設
46	創業支援情報発信事業	空き店舗情報、創業支援制度等、新規開業に役立つ情報の一元化及び情報発信	市	○	HP「こうち創業 Village」の運営
47	中心市街地インバウンド対策事業	外国人旅行者を中心市街地へ誘客するための取組	市・商店街	○	大型客船寄港時に中心市街地へのシャトルバス運行やおもてなし活動等を実施
48	高知城歴史博物館ソフト事業	高知城歴史博物館での各種イベントの実施や日曜日・商店街との連携事業、情報発信等	県	○	- 日曜日と関連したイベント、まちの歴史文化スポットに関する情報提供を実施 - 中心市街地の文化施設による連携活動として、合同イベント「お城下文化の日」を実施
49	商店街魅力発信事業	商店街のイベントや個店について情報発信し、来街促進を図る。	市・(株)高知市中心街再開発協議会	○	中心商店街HP「よさこいタウン」や市HP「おまちと商店街のイベント」、SNSでイベント等の情報発信を実施
50	フラフ等による商店街の演出事業	高知の文化であるフラフ等を季節ごとに掲出し、商店街を明るく演出する。	市・(株)高知市中心街再開発協議会	○	季節ごとに商店街アーケード内にフラフ等を設置

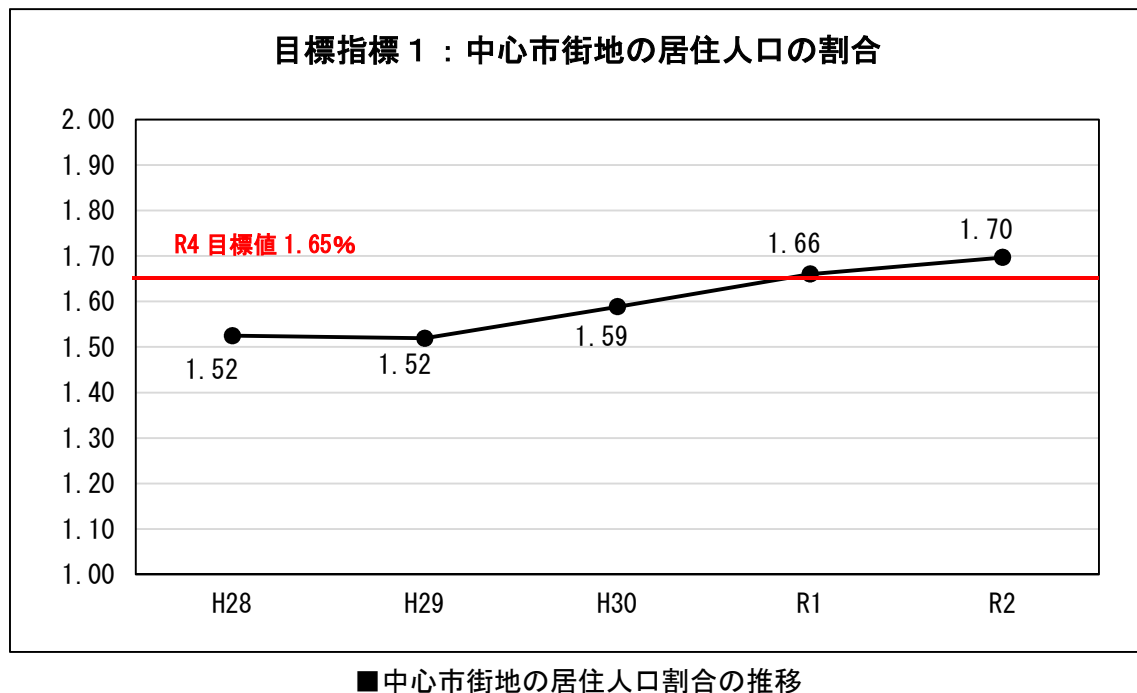
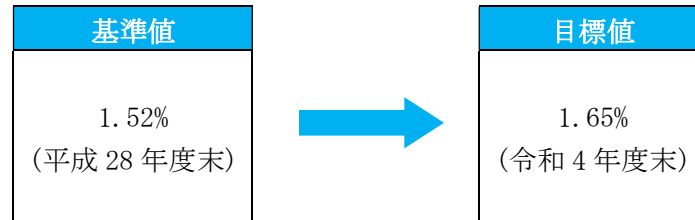
事業名		事業内容	実施主体	進捗状況	主な実績等
51	商店街防災対策事業	南海トラフ地震等発生時における来街者の津波避難対策の推進	市・民間	○	- 津波避難ビル指定の推進 - 防災講習会や避難訓練等の実施
52	芸術文化振興事業	県民文化ホール、かるぼーと等での芸術・文化イベントの実施により来街促進を図る。	県・市・民間	○	県民文化ホール及びかるぼーとでの自主事業を実施
53	オーテピア高知図書館での情報発信事業	オーテピア高知図書館の立地を活かして、観光・日曜市・商店街等の情報発信を行う。	県・市	○	ポスターの掲示やチラシの配布、図書の展示、商店街等の情報発信を実施
54	オーテピアにおけるソフト事業	オーテピアでの各種イベントの実施や日曜市・商店街との連携事業の実施	県・市	○	- 土曜夜市の参加 - 中心市街地の文化施設による連携活動として、合同イベント「お城下文化の日」を実施
55	高知大丸リニューアル事業	中心市街地に位置する百貨店のリニューアル	(株)高知大丸	○	- R4年3月に地域共生型百貨店として高知のローカル資源を取り入れたリニューアルの実施 - R4年9月にリニューアル第二弾として、飲食店やチャレンジショップ等を備えた OMACHI360 がオープン。
56	学生と商店街の連携事業	学生と商店街が連携したイベントの開催等	学生・商店街	○	- はりまやストリートフェスティバルの開催 - 商店街と学生のまちづくり勉強会を実施

○公共交通の利便増進に寄与する事業

事業名		事業内容	実施主体	進捗状況	主な実績等
57	観光周遊バス運行事業	高知駅と桂浜を発着点として市内の観光地を経由する MY 遊バスの運営、中心市街地の飲食店や店舗との連携	(公財) 高知県観光コンベンション協会	○	「MY 遊バス」の運行 - 観光施設や宿泊施設等において割引特典、サービス等を付与
58	公共交通利用促進事業	公共交通の利用を促進させるためのイベント、広報等	市・交通事業者	○	ICカード「ですか」無料配布キャンペーン、高齢者おでかけ支援定期「おでかけ電車 65」販売等を実施
59	バス路線再編事業	分かりやすく使いやすい路線網の再編	市・交通事業者	○	長距離系統を短距離系統に分割するなどして、利用しやすいバス路線網へ再編
60	バス停整備事業	バス待機機能を備えたバス停の整備	市・とさでん交通(株)	○	劣化したバス停を更新するためバス停整備を実施

(5) 評価指標の達成状況と評価

評価指標 1：中心市街地の居住人口の割合

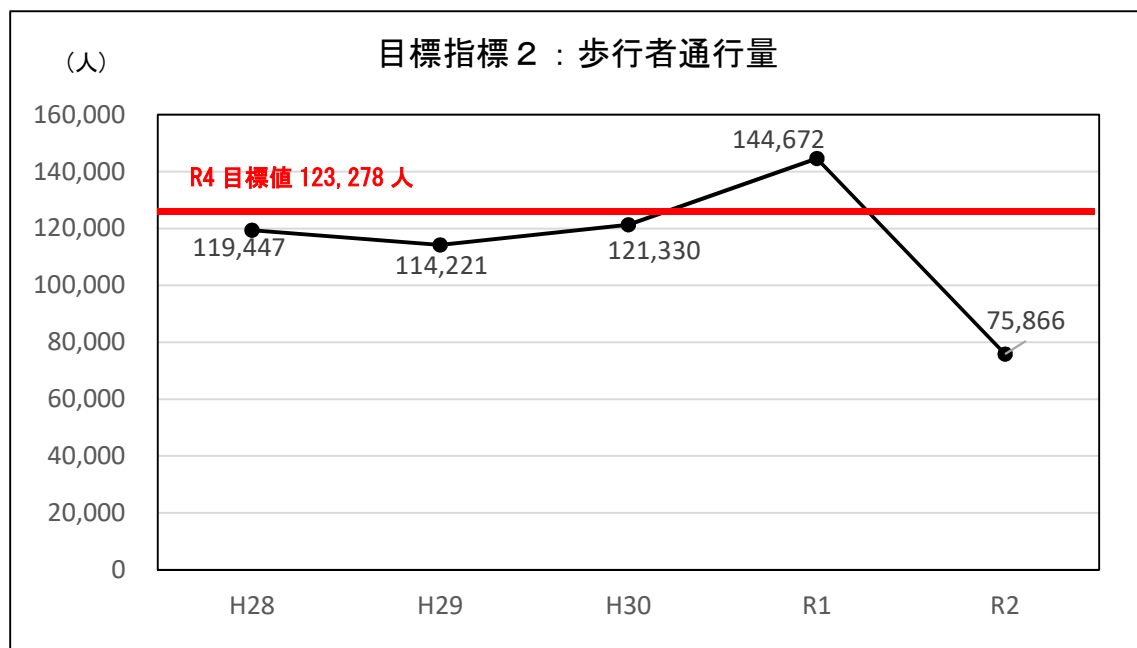
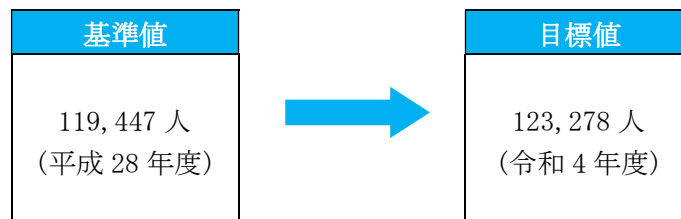


＜達成状況＞

中心市街地の人口については、主要事業である民間分譲マンションの整備事業が予定通り事業完了したことや、計画登載以外にもマンション建設が相次いでいることなどから、中心市街地の居住人口は平成 29 年度以降毎年増加し続けている。

新たなマンション整備は令和 3 年度に 3 棟、令和 4 年度にも 3 棟予定されていることから、今後も居住人口が増加すると予測され、目標は達成可能と見込まれる。

評価指標2：歩行者通行量（17地点・冬季・平日休日2日の合計）



■歩行者通行量の推移

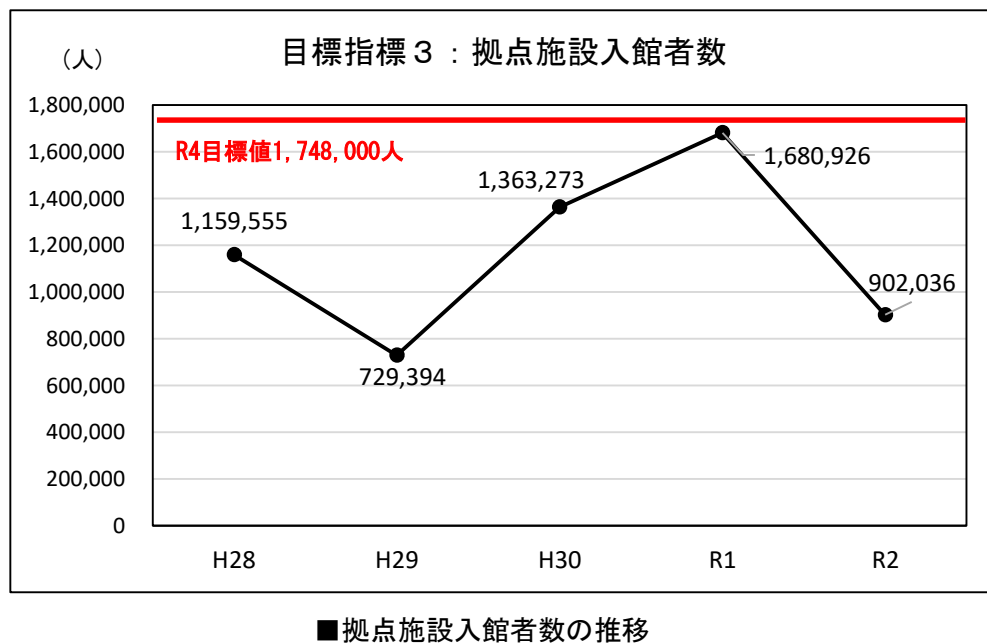
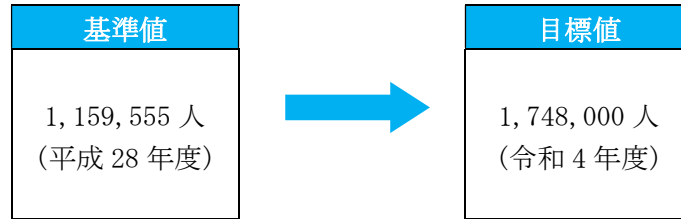
〈達成状況〉

中心市街地では帯屋町チェントロ（平成27年）、高知城歴史博物館（平成29年）、オーテピア（平成30年）が整備され、新たな人の流れや賑わいが生まれたことに伴い、近年は歩行者通行量が増加傾向にあり、令和元年度の歩行者通行量は144,672人と、本市が中心市街地基本計画の取組を開始した平成24年度以降最も高くなっていた。

しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の急拡大による外出控えや観光客入込数の減少が大きく影響し、平成24年度の調査開始以降過去最低の数値となった。主要ハード事業は概ね順調に進捗している一方で、ソフト事業については、数多くのイベントが中止や規模縮小を余儀なくされ、今後についてもコロナの収束が不透明であるため、コロナ以前に設定した目標を達成することは困難と考える。

評価指標3：拠点施設入館者数

※オーテピア・高知城歴史博物館・かるぽーと・高知よさこい情報交流館の4施設



〈達成状況〉

拠点施設の入館者数については、オーテピア開館（平成 30 年 7 月）や事業の進捗により増加傾向となっていたが、一転して令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により各施設が休館していたことやイベントの中止及び外出控えなどが影響し、前年の 4 割以上の落ち込みとなった。

各拠点施設では感染症対策を行いながら各ソフト事業の展開に努めているものの、オンラインや密集を回避する規模での実施が今後のニューノーマルとなっていくことに加え、拠点施設の一つである「かるぽーと」は令和 4 年度から大規模改修が予定されており全館休館になることから、目標を達成することは困難と考える。

（6）前計画の総括

指標である「中心市街地の居住人口」は、マンション建設等により増加傾向であり、居住環境の機能の集約化も進められていることから、コンパクトシティの形成が図られており、令和2年度時点で目標値も達成されている。

一方で、「歩行者通行量」と「拠点入館数」は、平成29年から令和元年にかけて増加傾向であったが、新型コロナウイルス感染症の急拡大により大きく減少することとなり、目標達成することは困難であると思われる。

新型コロナウイルス感染症を機に人々の生活や働き方に大きな変化が求められ、中心市街地における、人々の働き方や過ごし方においても変化が生じていると考えられ、コロナ収束後、「歩行者通行量」や「拠点入館数」の回復が見込めたとしても、今後更なる増加は難しいことが考えられる。また、前計画で事業進捗率は97%であるものの、令和3年7月の市民意識調査結果では、5年前（平成28年）と比較して中心市街地が「活性化していない」と答えた人は44.9%と約半数いる状況である。

以上のことから、コンパクトシティ形成に向け、前計画では主要のハード事業を展開し、居住人口の確保と多くの人々が回遊する仕組みづくりを進めることができたが、営業店舗数が減少傾向であることや市民意識調査における市民の評価を踏まえると、次期計画は、コロナ禍を踏まえ、快適性や利便性など、より中心市街地の「質を高める」ことが重要課題であり、質を高めるために、商業・観光・文化などのあらゆる機能を強化・充実させることで、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた中心市街地の求心力と回遊性を回復させていくことが求められる。

〔5〕 中心市街地活性化の課題

【課題1】居住者・来街者ニーズへの対応

中心市街地の人口が増加している一方で、営業店舗数が減少しており、今後、居住者と来街者の快適性や利便性を向上させ、「高知市の顔」として中心市街地を維持するためには、多彩な店舗・業種を集積させ、働く場所としても存在感を高めていくことが課題となっている。

【課題2】中心市街地のさらなる魅力向上

商業・観光・文化・教育など多様な施設が集積しており、第二期計画までの事業によりオーテピア等のハードが整備され、中心市街地の魅力が向上したものの、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、来街者数や滞在時間の回復が課題となっている。

[6] 中心市街地活性化の基本的な方針

＜中心市街地活性化の考え方＞

暮らしたいまち・働きたいまちの実現

「立ち寄りしたい」「滞在したい」と思い、日頃よく利用したくなるまちづくりを進めることで、中心市街地を主に利用する居住者や通勤・通学者が、快適で居心地よく感じられる空間を実現し、地元へ愛着を感じることで「暮らしたいまち」、「働きたいまち」の実現を図る。

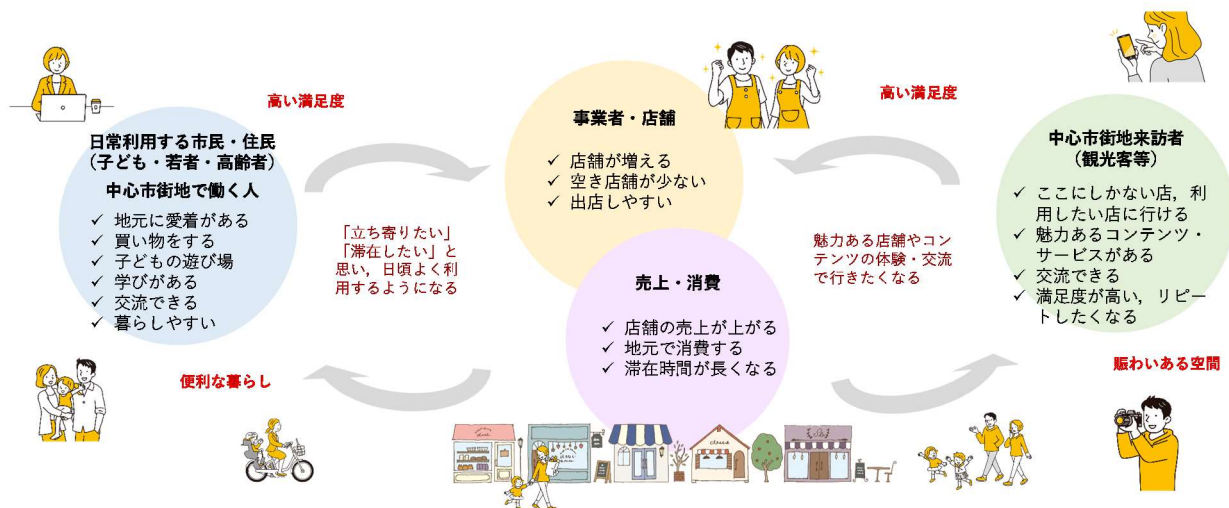
訪れたいくなるきっかけづくり・滞在したくなる仕組みづくり

商業・観光・文化など、あらゆる機能を強化・充実させることやDXの推進等により、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた中心市街地の求心力と回遊性を回復させていく。市郊外、県内外、海外から来街者及び交流者を少しずつ回復・増加させることで事業者・店舗の増加や売上向上にもつなげる。また、高齢の方や障害のある方など、誰もが安心して訪れ、楽しく快適に過ごせるまちづくりを推進する。

以上のことから、新計画における中心市街地の活性化は、前計画の課題を解決するとともに、中心市街地に暮らす人、中心市街地で働く人、中心市街地に訪れる人など各ターゲットがこの地に魅力を感じ、一緒に魅力を創ることのできる『おまち』として、質の高い中心市街地の形成を目指す。

【基本コンセプト】

暮らす・働く・訪れ遊ぶ 魅力共創の『おまち』へ



■中心市街地の目指すべき姿（イメージ）